

施工・メンテナンス・取扱上のご注意

P519 施工・メンテナンス

P547 取扱上のご注意

施工時の環境

施工の時に注意しなければならないことの一つに温度、湿度、通気、立地といった施工環境があります。これらの環境がもたらす材料の変化、環境に合わせた施工術をよく考慮した上で適切に施工することが大切です。

1.温度について

<p>施工現場の温度が高いとき</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●材料は柔らかくなり、下地になじみやすくなる。 ●接着剤は、粘度が低くなり、伸びやすく塗布しやすくなる。暑い夏などは、接着剤の乾燥時間が極端に短くなる。
<p>施工現場の温度が低いとき</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●材料は硬くなり、下地になじみにくくなる。 ●接着剤の粘度が高くなり、くし目の通りが悪くなり、伸びにくくなる。そのため塗布量が増えて乾燥しにくくなる。 →硬化時間が長くなる。塗りムラに注意。
<p>温度変化があるとき</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●朝晩で気温の変化があるときや冷暖房設備による室温変化、窓の大きな部屋で直射日光が照り付け、日中と夕方の室温変化があるときは次のことに注意する。 →材料は高温になると伸びて大きくなり、低温になると縮んで小さくなる。 これは、寸法がくるって目地ずれ・突き上げの原因となる。

<p>温度と施工</p>	
<p>●施工はできるだけ10℃以上で行うことが望ましい</p>	<p>工期の問題、設備などが整わないなどの問題もあるが、できるだけ施工環境温度は10℃以上にする。単層ビニル床シート・膝タイルなど天然素材は、温度や湿気の影響を受けやすいので施工環境温度は、15℃以上が望ましい。</p>
<p>●急激な温度変化は避ける</p>	<p>材料は急激な温度変化により伸びたり縮んだりし、寸法をくわせる。また接着剤は低温では硬化が遅れ、温度変化したときの材料の伸びを抑えられるだけの接着力が得られないので、膨れや突き上げの原因になる。したがってできるだけ施工中と養生期間中の温度を合わせて施工する。また直射日光や冷暖房による施工中の急激な温度変化にも注意する。特に店舗など窓の大きな場所は直射日光による輻射熱で日中と朝晩の温度変化が激しいので、カーテンやブラインドなどで遮光するなどして直射日光が床面に当たらないようにする。</p>
<p>●使用する床材を施工する場所の温度になじませる</p>	<p>施工する場所の温度が適当であっても、材料自体が冷えきって縮んでいたり、逆に温まって伸びきっていたりすると、施工中や養生中に寸法変化を起こし膨れや突き上げの原因になる。そのため材料を施工前24時間は仮敷きをして巻き癖を取ったり、室温に馴染ませておくことが必要となる。</p>
<p>●夏の暑いときには接着剤の取り扱いに注意する</p>	<p>温度が高くなると接着剤の硬化が速くなる。夏の高温下では極端に接着剤の硬化が速まり、オープンタイムや貼り付け可能時間が大変短くなるので、1回の接着剤の塗布面積には十分に注意する。エポキシ系の接着剤は2液の化学反応により硬化するが、高温下では極端に硬化が速くなり貼り付け可能時間が短くなるので、オープンタイム、貼り付け、圧着の時間には十分に配慮したうえで塗布面積を決定する必要がある。また2液反応型接着剤を容器に混練したまま放置しておくと、固まって使えなくなってしまうので使うだけの量を混練する。</p>

2.湿度について

<p>湿度が高いとき</p>	<p>エマルジョン形・ラテックス形接着剤は、水分が蒸発することによって硬化、接着するので空気中の湿気が多いと蒸発を遅らせ、硬化が遅くなる。ウレタン樹脂系接着剤は、逆に水分や空気中の湿気と反応することによって硬化するので湿気が多ければ硬化が速まる。</p>
<p>湿度が低いとき</p>	<p>湿度が高いときとは逆にエマルジョン形・ラテックス形接着剤は硬化が速くなり、ウレタン樹脂系は遅くなる。</p>
<p>下地や空気中の高い湿気には注意する</p>	<p>コンクリート下地などからの高い湿気や空気中の高い湿度には、施工の際に注意が必要である。エマルジョン形・ラテックス形の接着剤は、湿気の影響を受け硬化が遅れる。接着硬化が遅れると、材料の環境変化による寸法変化を抑えきれず、浮き・膨れ・突き上げの原因となる。また施工中に夕立が降ったりした場合、空気中の湿気が増えると床面に塗布してオープンタイムを取っている接着剤の表面に水滴がつき、硬化を遅らせ強度を弱くする。これもまた膨れや突き上げの原因になる。</p>

3.通気について

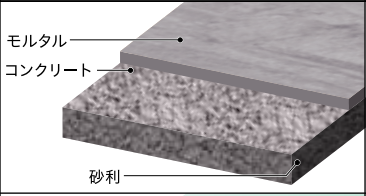
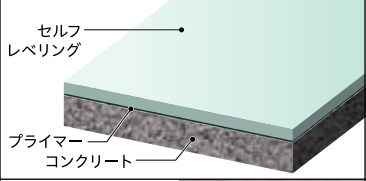
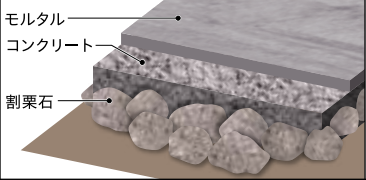
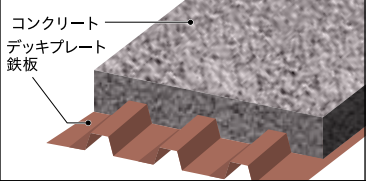

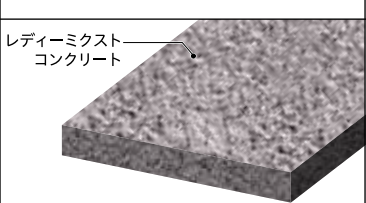
<p>溶剤形の接着剤を使っているときは通気をし空気の入替えをするが、あまりにも風通しがいいと接着剤の乾燥が速くなり、オープンタイム、貼り付け可能時間等が短くなるので注意が必要。塗布量の加減、塗布面積にも加減が必要となる。特にエポキシ樹脂系、ウレタン樹脂系、ビニル共重合樹脂系などの溶剤形接着剤は、溶剤が入っているため風による揮発が早く、通気、通風がいいところでは、極端に乾燥が速くなるので試し塗りなどで乾燥状態を調べて施工を行う。</p>

4.立地環境について

<p>●寒冷地 寒冷地における低温は、接着剤の硬化の遅れや材料が硬くなる、縮むなどの寸法変化を起こす。また暖房使用時と使用していないときの温度差が激しいので膨れ・突き上げを招きやすい。施工時の室温を施工環境温度に高めることは勿論、できるだけ材料を施工時及びその後の養生時の温度になじませることが大切である。材料は施工する24時間前には施工場所に搬入し、施工環境温度、またできればその後の養生環境温度になじませておくことが大切である。</p>
<p>●埋立地 通常、埋立地は、普通の土地と比較して土中湿気が数倍高く、常に空気中に高い湿気が上昇している。下地を通して湿気が上がらないように、下地の下にポリエチレンなどの防湿フィルムを敷く必要がある。実際に水田を20年前に埋め立てたという土地でも、接着剤の無力化が起こりクレームになった例もある。</p>
<p>●海・川・池 実際に300～400m離れた池の影響を受けたという例があるほど水場は影響する。海・川・池の近くは、空気中は勿論、土中を伝って下地への水分の影響がある。特に土中を伝ってモルタルから上がってくる水分はアルカリ性であり、ビニル共重合溶剤系の接着剤と加水分解と呼ばれる化学反応を起こし、それらの接着剤を無力化する。またコンクリート下地を通して運ばれる強アルカリ性の水分は、ビニル系床材に含まれる成分と化学反応を起こし、耐久性に悪影響を及ぼし製品の劣化に繋がることもある。</p>
<p>●地下室 長く使用されず放置されていたり、空調施設の施されていない地下室の空気は冷えており、その真上の部屋の床下地に影響を及ぼすことが多い。地下室と階上の部屋とで室内の温度差があると結露が発生し、下地を通して湿気が上昇し床材の突き上げや膨れなどの原因になる。この場合も下地の下に防湿フィルムを施す必要がある。</p>

下地の確認 STEP1 吸水性と下地の種類

下地の吸水性は接着剤の塗布量・乾燥・接着効力に大きく影響し、接着剤のオープンタイムや選定等仕上げ材の施工方法に関わります。適切な施工には、下地の種類・特徴に応じた工法の選択と対処が必要です。

下地の種類	構成図	特徴・注意点
吸水性あり	 <p>モルタル コンクリート 砂利</p>	セメントモルタルを金ごて仕上げた下地。表面が滑らかで吸水性が良く、床材施工に適している。 *モルタル下のコンクリートの乾燥不足による湿気が、接着剤の効力に影響することがある。
	 <p>セルフレベリング プライマー コンクリート</p>	石膏又はセメント系の自然流動材を不陸のあるコンクリート等床面に流して、コテ押えなし(セルフレベリング:自己水平)で仕上げた下地。 *石膏系は強度が低く耐水性が無いため、塩ビ系床材には不適。セメント系はコンクリートやモルタルに比して厚みがないため弱い。樹脂が水分を閉じ込めるため、乾燥が極端に遅い。コンクリートに水分上昇を防ぐためのプライマーを塗るが、その乾燥状況により気泡が発生し、床材施工後に膨れの原因となる。
	 <p>モルタル コンクリート 割栗石</p>	地面に直接接した状態でコンクリート仕上げた下地。 *吸水性の良いコンクリートが地面の湿気を床材に伝えることで、接着剤の効力に影響することがある。地面とコンクリートの間にポリエチレンフィルムを敷き、防水層を設ける場合が多い。
	 <p>コンクリート デッキプレート 鉄板</p>	デッキプレート等の鉄板の上にコンクリートを打設し、金ごて仕上りモルタル仕上げをした下地。 *特に鉄板(デッキプレート)下地とコンクリートの組合せは鉄板が水分を逃がさず、コンクリート表面からのみ乾燥する。このため、通常の約2倍以上の乾燥期間が必要となる。更に、鉄板下地と軽量コンクリートの場合は約5倍の乾燥時間を要する。
吸水性少ない	 <p>木質系 根太</p>	ベニヤを積層し、接着剤で張合せて1枚の板にした材料(合板)を用いた下地。コンパネ:コンクリートパネルの略。コンクリート打設の型枠に使用される厚さが12mmの耐水合板「ラワンベニヤ」。 *他下地に比して剛性が低く、段差・隙間・たわみによる目地の収縮・突き上げにつながり易い。下地接合部の段差・隙間・釘頭は、床材施工後の不陸の原因となる。防腐剤や防蟻剤を使用しており、床材を汚す原因ともなる。 *パーティクルボードは湿気に弱くたわみや段差が生じるおそれがあり、ビニル床材の直接施工下地としてはおすすめできません。
	 <p>レディーミクスト コンクリート</p>	「コンクリート一発仕上げ」と呼ばれる下地。乾燥が比較的早く、強度も出る。 *しばしば平滑性に欠け、コンクリートの目の粗さによるコテムラの発生、表面強度のばらつきがある。

下地の確認 STEP2 下地の乾燥状態の判断方法

■水分計を使用する方法

水分計の設置面が平坦でゴミ・埃がなく、通風のない場所を選んで下地水分の測定を行う。

■ポリエチレンフィルムを利用する方法

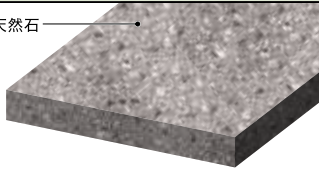
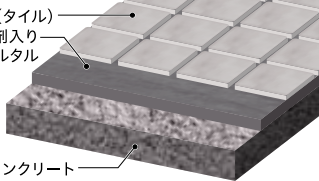
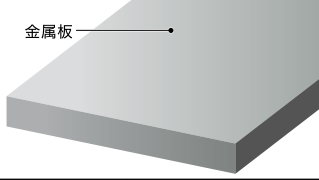
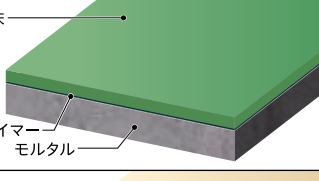
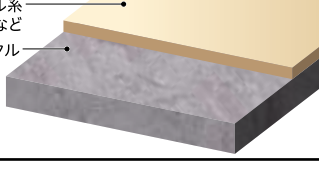
約1m角のポリエチレンフィルム(ゴミ袋等)を下地に広げ、空気が逃げないように四方をガムテープで張り、24時間放置する。その後、フィルム内側に付いた水滴や下地の変色状態を観察し判断する。

■バーナーを利用する方法

バーナー(トーチランプ)を用い下地表面を炙り、水滴の有無や変色状態を観察し判断する。

水分計*			水分計以外での確認方法		施工方法の目安
グレード	選択 D.MODE	従来の水分指標	ポリエチレンフィルム	バーナー	
I	440未満	8%以下	24時間後変化なし	下地表面に変化なし	一般工法
IIa	440以上620未満	8%~10%	24時間後黒ずみ(輪郭不明瞭)	下地表面が黒ずむ	耐湿工法
IIb	620以上	10%以上	24時間後に変色結露が見られる	下地表面に水滴が浮く	施工不可

*使用水分計:株式会社ケット科学研究所 高周波静電容量式水分計「HI-520-2」D.MODE選択による

下地の種類	構成図	特徴・注意点
吸水性なし	石材系 (大理石など) 	＊剛性が強く、僅かな段差・隙間・浮きを床材が拾ってしまう。破損・損傷部は下地補修剤などで平滑に仕上げることがある。
	磁器(タイル) 	＊表面の密閉性が高く、吸水性が全くない。粒子が球状のため、接着剤が付き難く施工できない。
	金属系 	＊ビス頭・溶接部等の凹凸、錆と油汚れに注意が必要。溶剤形の防錆剤がウレタン・エポキシ樹脂系溶剤形接着剤と反応し、防錆効果がなくなったり、接着効果がなくなる場合がある。
	塗り床 	コンクリートの上にウレタン塗料を塗った下地。 ＊継ぎ目がないため、平滑であれば施工しやすい。一方、さざ波仕上げなどは平滑性に欠けたり凹凸があるため注意が必要。剥離、クラックに対してはパテなどで補修をする。
	重ね貼り 	既設床材を剥がさずに施工する場合の総称。 ＊硬さ・不陸・目地部分の平滑性、ワックス付着に注意は必要。

■吸水性のある下地

エマルジョン形・ラテックス形・溶剤形等、液体の蒸発によって固化する接着剤と馴染みがよく乾燥しやすい。吸水性があるため、その下地(基礎)の影響も受けやすい。例えばモルタルはその下のコンクリートの湿気を吸収し、床仕上げ材に影響を与えることがある。

■吸水性の少ない下地

接着剤に含まれる液体が蒸発し難いため、エマルジョン形・ラテックス形は適さない。乾燥固化が遅いため、接着不良の原因となりやすい。反応型接着剤を用いるか、接着剤の塗布量を少なくする必要がある。

■吸水性のない下地

仕上げ材を通してしか接着剤に含まれる液体の蒸発がなく、接着剤の乾燥が極めて遅い。通常、反応型接着剤を用い、塗布量を少なめにし、オープンタイムにも注意を要する。床材の変質、目地からの接着剤の滲み出しにも注意する必要がある。

■株式会社ケット科学研究所製「コンクリート、モルタル水分計 HI-520-2」による水分測定方法(表面から40mm程度まで)

●測定手順

- 測定対象床下地から、測定対象箇所を適宜選定する。
- 水分計の各ダイヤルを以下の通りセットする。
D.MODE
(厚さ:40mm程度、温度:オート設定)
- 水分計を測定対象箇所の床下地表面に置き、表示値を読み取る。
測定は水分計を置く位置を適宜ずらしながら数回行い、平均的な表示値を求めることとする。

●測定結果の評価:測定表示値を左記表グレードで判断し施工方法の判定を行う。

測定方式	高周波容量式(20MHz)	HI-520-2
測定対象・範囲	コンクリート 0~12% モルタル 0~15% ALC 0~100% 人工軽量骨材コンクリート 0~23% 石膏ボード 0~50% ケイ酸カルシウム板 0~15% D.MODE 0~1999 S.MODE 0~1100	
表示方法	デジタル(LCD、表示最小桁0.1%)	
電 源	電池 9V(006P アルカリ)×1	
消費電力	350mW	
寸法・質量	72(W)×146(D)×118(H)mm、0.39kg	
付 属 品	ソフトケース、電池、取扱説明書	

床暖房への施工

1. 床仕上げ材施工における床暖房の問題点

床暖房下地への施工は、床暖房機材と床仕上げ材が多様化・多機能化しており、床暖房による温度変化が下地にさまざまな変化をもたらすため、困難な施工の一つといえます。温度変化が引き起こす下地の伸縮、床仕上げ材の伸縮、下地の水分の急激な上昇、伸縮のため発生するコンクリート下地のクラックなどさまざまな問題が生じます。また床暖房機材によっては、場所により温度のバラツキの激しいものもあります。そのため事前の打ち合わせは入念に行う必要があります。下記のような問題が発生する可能性を事前にご理解のうえ施工を行ってください。

床暖房の基本的な問題

●加熱による下地への影響

加熱をすると下地から湿気が上昇しやすくなります。加熱による急激かつ多量の湿気の上昇は接着剤と下地との間に水分の膜をつくり、接着効力を無力化します。また下地に亀裂がある場合、加熱するとその部分が伸縮し、床材を押し上げることがあります。

●加熱による床材への影響

床暖房の加熱により床材自体が伸縮し、突き上げや膨れ、剥がれの原因になります。また、電熱線を熱源とした床暖房では、熱線部分の熱が集中し、筋状に床材が変色を起こすことがあります。また、保温、蓄熱性の高い敷物等を使用され、敷物等と床材の間に蓄熱した高温状態が長時間続くこと床材が変色を起こすことがあります。

捨て貼り合板は将来的に温度変化の繰り返しにより収縮が生じ、捨て貼り合板ジョイント上の床仕上げ材に影響を及ぼすことがあります。

●加熱による接着剤への影響

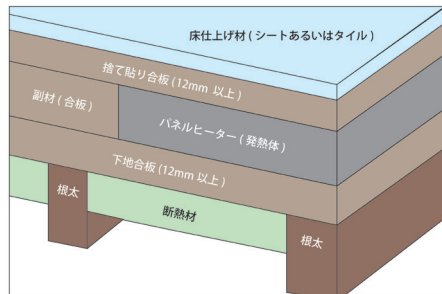
十分な接着剤の硬化が得られていない場合、加熱により接着剤の効力が損なわれ、突き上げや膨れ、剥がれの原因になります。

●暖房効率への影響

厚みのある床材、発泡層のある床材を敷設すると、暖房効率が低下する可能性があります。

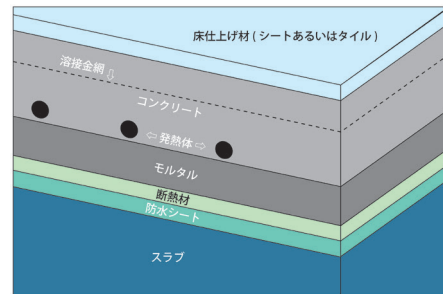
2. パネル型床暖房と埋設型床暖房

●パネル型床暖房



パネル型床暖房システムの問題点は、部材と部材の隙間や段差が床仕上げ材に影響を与えることです。これを防ぐために12mm合板などを捨て貼ります。一般的にはこの工事は建設工事であり、内装工事には入りません。捨て貼り合板自体に段差があったり、目地が床材に影響を与えそうときは、サンダーなどで平滑な面にし、パテ処理をしてから施工してください。

●埋設型床暖房



埋設型床暖房システムの問題点は、通湯パイプから発生する熱がコンクリート下地にさまざまな変化をもたらすことです。急激な温度変化により、下地の水分が一気に上昇して床材や接着剤に影響を与えたり、下地自体にクラックが発生して床材に膨れなどのクレームを引き起こします。

埋設型床暖房の下地に対する事前対処

- 下地水分グレードが「I」であることを確認し、コンクリート乾燥の促進に床暖房試運転を行ってください。その際は床暖房使用時温度+5°Cで繰り返し行い、クラックを十分に発生させ、クラックの不具合をチェックし補修します。
- 1mm未満のヘアークラックは段差をサンディングし平滑にします。1mm以上のクラックはクラックに沿って溝切りを行い、クラック補修材などを充填し処理を施してください。
- 下地の状態が悪く、床材の直貼りが困難と判断した場合は、厚み12mm以上の合板を捨て貼りしてください。

3. 床材の施工方法

●全面接着工法

エポキシ樹脂系接着剤またはウレタン樹脂系接着剤を下地全面に塗布して施工するもともと基本的な工法です。下地の伸縮による影響を受けやすいですが、重歩行エリアや移動荷重がかかる場所には適しています。

●置き敷き工法

熱で寸法変化の少ない床材(カーペットタイル等)をピールアップタイプの接着剤で施工する工法です。(軽歩行エリア)

●額縁接着工法

ビニル床シートの施工において、周囲をエポキシ樹脂系接着剤またはウレタン樹脂系接着剤で強接着して、内側にアクリル樹脂系エマルジョン形接着剤を使用する方法です。下地に発生したクラックが多い場合や補修困難な場合に施し、下地の追従性を求めるとともに問題が発生した場合に補修しやすいように考慮された施工法です。この工法でおさめる際の条件は施工時に通熱することです。

一方、耐久性には劣るため、ホール・廊下といった重歩行エリアやキャスターなどの移動荷重がかかる場所では、この工法は避けてください。

4. 施工時の通熱

- 床暖房機材メーカーの施工マニュアルに通熱の指示がある場合はそれに従ってください。
- 施工時において、気温が20°C以上の場合は通熱しないのが一般的です。逆に気温が20°C未満の場合は2日前から通熱し、床材は24時間以上の仮敷きを行ってください。

5. 養生

- 通熱して施工が終了した場合、接着剤が硬化するまでの48時間は通熱したまま養生してください。

床暖房への施工

6. その他の注意点

- 非床暖房取り合い部の伸縮目地とクラック誘発目地の上は、床材の仕上げ施工はできません。エキスパンション金具処理及びコーキング処理をすることが必要となります。

7. 各種床仕上げ材特有の施工注意点

1) ビニル床シート

パネル型床暖房の注意点

- 捨て貼りをした合板とシートのジョイントが重なり合わないようにします。
- ジョイント部は液溶接工法ではなく熱溶接工法とし、溶接は48時間以上養生をした後、シートがよく接着されているのを確認してから常温で専用溶接棒を使い行ってください。

埋設型床暖房の注意点

- ジョイント部は液溶接工法ではなく熱溶接工法とし、溶接は48時間以上養生をした後、シートがよく接着されているのを確認してから常温で専用溶接棒を使い行ってください。

2) カーペットタイル・ビニル床タイル

パネル型床暖房・埋設型床暖房の注意点

- 施工24時間前から重ならないように仮敷きし、現場の室温になじませてください。
- 低温時はゆるめ、高温時はきつめに施工してください。後からの床材の寸法収縮を考慮して施工します。

床暖房施工可否表

種類	商品名	可否	工法
ビニル床シート	ナーシングフロア、メディウォーク、ストロング エスリューム・リアル、エスリューム (ミスト、ルーミー、ウィーブ カルド、ウッドII、プレーン、マーブル)	○	全面接着工法 (EP-300、WPX、WG)
機能性ビニル床シート	ナーシングフロアV、SKフロア、抗ウイルスマーブル エスリューム ラボ、エスリューム プラス、消臭レストリューム	× (※1)	
防滑性ビニル床シート	ニューセーフティ、オフフロア、プレーンエンボス ノンスキッド	○	全面接着工法 (EP-300、WPX、WG)
単層ビニル床シート	オデオンPUR、グラニット、メガリット	○ (※2)	全面接着工法 (EP-300、WPX、WG)
その他床シート	ココフロア (シート)	○	全面接着工法 (EP-300、WPX、WG)
	フロテックスシート	○	全面接着工法 (EP-300、WPX、WG)
	アンダーレイ	○	全面接着工法 (EP-300、WPX、WG)
クッションフロア	1.8mm厚	×	
	消臭快適フロア	×	
	3.5mm厚フロア、CMフロア	×	
	遮音フロア	×	
パンチカーペット	SベットECOII	×	
複層ビニル床タイル	2.5mm厚一般タイル、2mm厚タイル、キラリタ	○	全面接着工法 (EP-300、WPX、WG)
置敷きビニル床タイル	OT、リフォルタ	○	全面接着工法 (EP-300、WPX、WG)
	ルームプラス	○	全面接着工法 (EP-300、WPX、WG)
その他タイル	ココフロア (タイル)	○	全面接着工法 (EP-300、WPX、WG)
	たたみタイル、とうタイル	× (※1)	
	コルクタイル	○ (※3)	全面接着工法 (SD)
カーペットタイル	KR-11288	×	
	KR-11286、11287、11289	×	
カーペットタイル	NT/DTシリーズ (NT-350S、NT-700S、輸入品除く) グラフィカシリーズ、スタイルキットプラスシリーズ、 アンダーレイ+カーペットタイル (上記に準ずる)	○	軽歩行：置き敷き工法 (GT、GTS) 中・重歩行：全面接着 (EP-300、WPX、WG)
	NT-350S、NT-700S、輸入品 (NTH-8000、NTH-8100、 NTH-840、NTH-7200、DT-5080、DT-6200、DT-7900、 DT-7910、DT-7920、DT-7050、DT-1240、DT-2150、DT-1200)	×	
ロールカーペット	全品種 (カンガバック品除く)	○ (※4)	全面接着工法 (EP-300、WPX、WG) グリッパ-工法
	カンガバック品 (サンシンフォニー®II、サンコーラス®)	×	

※1 機能性商品は性能が低下する場合があります。

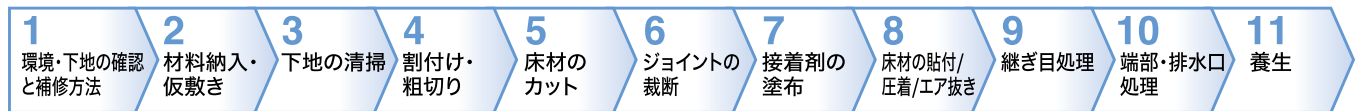
※2 寸法安定性を担保するガラス繊維層などを持たない単層シートでは、加熱による後伸びを避けることができません。耐熱性の接着剤を使用し、しっかりと圧着してください。

※3 接着剤はSD (BB-581) を使用してください。コルクタイルは縮む性質がありますのでしっかりと鉄ローラーで圧着してください。

※4 ロールカーペットは裏面にジュート (麻) を使用しているため、特有の臭いがあります。臭いが気になる方はご使用をお避けください。

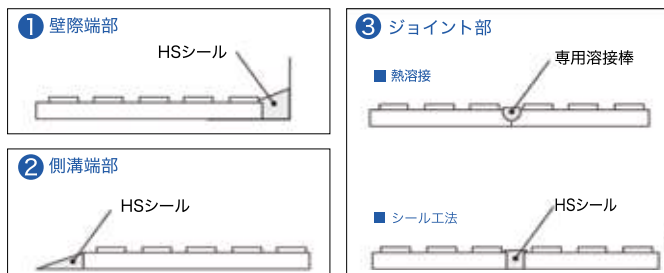
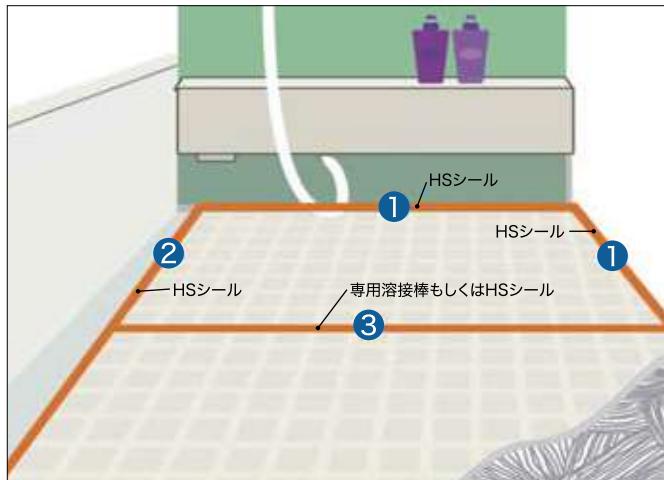
オフフロア、プレーンエンボス(浴室使用可能タイプ)浴室施工説明

■基本手順



■収まり図

壁際や側溝の端部やジョイント部の全景です。



■副資材 シール剤対照表

端部処理例



排水口処理例 ※円形目皿の場合



床材/シール剤推奨品番表

商品名	シート品番	HSシール品番
オフフロア	OH-22256	BB-574
	OH-22257	BB-574
	OH-22258	BB-574
	OH-22259	BB-574
	OH-22260	BB-563
プレーンエンボス (浴室使用可能タイプ)	PM-22264	BB-574
	PM-22265	BB-574
	PM-22266	BB-563

※上記は床材・各副資材の組み合わせ例であり、完全には色が合いませんのでお含みください。

1. 環境・下地の確認と補修方法

オフフロア、プレーンエンボスを施工する下地としての条件に適しているかどうかをチェックします。スムーズに水掃けがなされるよう、なだらかな勾配のある下地作りをしてください。

■モルタル・コンクリート下地

下地湿気は、高周波水分計「HI-520-2」D.MODE440未満(グレード1)を条件とします。
下地の不陸や凸凹はケレンしたりフロアセメント(BB-492・493)で補修します。

■セラミックタイル下地

下地に浮きや割れがないかを打診などで確認します。
目地や不陸、割れなどはフロアセメント(BB-492・493)などで埋めて全体が平滑になるように仕上げます。

■FRP下地

FRP下地は補修材や接着剤の密着性に劣る場合があります。全面をサンドペーパーなどで荒らして、FRP用のパテで全面を平滑になるように仕上げます。

下地補修により膨れや凹みができる、水掃け勾配が取れなくなり水掃けが悪くなりますので、必ず平滑でスムーズな水掃けができる勾配を確保してください。

2. 材料納入・仮敷き

現場の環境になじませ、運搬時の巻き癖、伸縮などを取り除くために必ず仮敷きしてください。特に低温時や寒冷地の場合、床材が硬くなっているため十分な仮敷き時間をとります。

3. 下地の清掃

床の汚れ・ゴミ・ちりなどは接着剤の効力を弱めクレームの原因となりますので、清掃の段階で確実に取り除いてください。

4. 割付け・粗切り

施工後の水の流れを妨げないようできるだけ目地が少なくなるように割付けし、長めにカットしておきます。

5. 床材のカット

壁際に位置する面や排水口などは3~5mm程度シールしろを空けて、巾定規やバースクライバーなどを用いてカットします。

6. ジョイントの裁断

専用溶接棒で継ぎ目処理をする場合は、落とし込み工法で処理します。レセスクライバーなどでけがいてからカットしてください。

※シール工法で継ぎ目処理をする場合はシールしろを3~5mm透かしてシートを施工してください。

7. 接着剤の塗布

EP-300(BB-575・584)を専用クシ目を使用して全面に塗布します。
※接着剤はA液・B液それぞれを十分攪拌した上でバケツなどに入れて十分に攪拌してください(床面で混ぜ合わせると接着不良の原因になります)。

8. 床材の貼付/圧着/エア抜き

エアを巻き込んだり、たるみが出ないように、ハンドローラーなどで中央から空気を追い出すようにして貼付けます。
空気だまりは下地の湿気などの影響を受けて膨れの原因になりやすいため、ちいさなものでも見逃さず必ず取り除いてください。
施工後は目地部分を含め、床材全面をハンドローラーなどで十分に圧着します。

9-1.継ぎ目処理(熱溶接工法)

■オフフロア専用溶接棒を使用します。

①溝切り

床材の貼り付け・圧着の後、接着剤が完全に硬化してから、継ぎ目部分をU字もしくはV字に溝切りします。

※溝の深さは、床材の厚みに対して2/3程度としてください。

※ジョイント箇所は溶接後の水掃けを考慮し床材のエンボスの一番低い目地部分でジョイントしてください。

②熱風溶接

専用溶接機ライスターを使用して目地部分を溶接します。

※熱風の温度が高すぎるとジョイント周辺の床材表面が溶解しツヤが出る場合がありますので十分に注意してください。

③余剰部分カット

溶接棒が十分に固まった状態でスパトラナイフなどを用いて余剰部分をカットします。

※溶接棒が固まる前にカットすると後に溶接棒がヤセ、凹みとなる場合がありますので十分注意してください。

9-2.継ぎ目処理(シーリング工法)

■シール剤(HSシール)を使用します。

①床材施工時にジョイント部を3～5mm空けておきます

※ジョイント箇所は溶接後の水掃けを考慮し床材のエンボスの一番低い目地部分でジョイントしてください。

②シーリング部分の確認・清掃

シールを施す面が、ゴミやホコリなどで汚れていないかを確認し、汚れている場合は清掃してください。

また湿気のある場合は十分に乾燥させてから作業してください。

③マスキング処理

仕上がりを美しくするために、シーリング部分にマスキングテープを貼りマスキング処理をしてください。

④充填と仕上げ

気泡を取り込まないようにシーリング面に均一になるようにHSシールを充填し、充填後は平らになるようにヘラで整えてください。

⑤マスキングテープの除去、養生

表面を仕上げた後、マスキングテープを取り除き、24時間養生します。その後入浴は可能ですが、シールが完全に硬化するまでには2～3日かかりますのでシール部分の清掃は控えてください。

10.端部・排水口処理(シーリング工法)

■シール剤(HSシール)を使用します。

①シーリング部分の確認・清掃

シールを施す面が、ゴミやホコリなどで汚れていないかを確認し、汚れている場合は清掃してください。

また湿気のある場合は十分に乾燥させてから作業してください。

②マスキング処理

仕上がりを美しくするために、シーリング部分にマスキングテープを貼りマスキング処理をしてください。

③充填と仕上げ

気泡を取り込まないようにシーリング面に均一になるようにHSシールを充填し、充填後は平らになるようにヘラで整えてください。

④マスキングテープの除去、養生

表面を仕上げた後、マスキングテープを取り除き、24時間養生します。その後入浴は可能ですが、シールが完全に硬化するまでには2～3日かかりますのでシール部分の清掃は控えてください。

11.養生

施工完了後、床材の浮き、膨れ、剥がれ、突き上げなどの不備や接着剤による汚れがないかを確認します。

施工後の汚れや破損を防止するため、必要に応じて養生シートなどで保護してください。

また、シール剤が完全に硬化するまではシール部分を踏んだり、ブラシなどでの清掃は避けください。

12.引渡し前清掃

引渡し前に清掃をお願いします。

日常のお手入れ

①浴室を水洗い

床・浴槽を熱いお湯で洗い流した後、スポンジなどで水洗いをしながら冷たい水で洗い流します。

水洗いでも浴室内の温度を下げる事で熱気がこもらないようにします。

②浴室洗剤を使ってブラッシング

浴室には人の脂肪分や石鹸カス、ホコリなど様々な汚れが付着します。浴室用洗剤を使用して、デッキブラシ・浴室用ブラシなどでかきだすようにして清掃します。

③換気

浴室は多量の水蒸気が発生します。

換気扇を回す、水分をふき取るなどして湿気を追い出します。

④日常メンテナンスのポイント

乾燥して汚れがこびりついてしまう前に、汚れを落とす事が床材をきれいに長く使って頂くコツです。

適正な日常清掃を心がけてください。

使用上のご注意

①ゴム汚染について

浴室用車椅子の車輪やキャスター、浴室用の椅子や台などに使われているゴム製品が、床材表面に接触すると、ゴムに含まれる成分により汚染される事があります。この汚染は除去することができませんので、ゴムの使用を避けるかゴムが床に直接触れないように下敷きなど保護板を用いてください。

②カビ対策について

床材に水分が残っているとカビの原因となります。

長時間使用しない部屋では換気を心がけてください。水垢や髪の毛、石鹸カスなどもカビの原因となります。

③重量物を置く場合について

重量物を無理に引きずると剥がれ、膨れなどの原因となりますので注意してください。

局部的に荷重がかかると凹み跡が残る場合がありますので、場所を替えて使用するなど注意してください。

④色移りなどについて

毛染め液、ヘアマニキュアなどの着色成分や化学薬品や強い作用を持つ洗剤、漂白剤などにより変退色や変質を招く可能性があります。こぼれた場合はただちに洗い流してください。また、履物やタオル、ランドリーバッグなどに含まれる染料が床材に着色する場合がありますので、放置しないでください。

⑤金属さびについて

カミソリやヘアピンなど、さびの原因になるものを放置すると、さびが床材を変色させる場合がありますので、放置しないようにしてください。

⑥日常ケアについて

床材の表面に水分が長時間滞留する状態が続くと床材表面が白っぽく変色する事があります。

この変色が発生した場合、十分に乾燥させる事で元の状態に戻りますが、水分が長時間滞留しないよう拭き取りや換気をするなど、こまめなケアが大切です。

ノンスキッド施工前の共通手順の説明

基本手順



1. 施工環境・下地の確認

《環境の確認》

施工場所の温度や湿度が施工時及び施工後に大きく影響します。特に冬場の施工に関しては作業環境温度の管理が重要となります。温度10～25℃、湿度75%以下が望ましく、施工前後は接着剤の種類に応じた養生時間を取るようになってください。また、接着剤の保管温度も5℃以下にならないようにしてください(変質・分離する場合があります)。

《下地の確認》

●平滑性

下地に不陸や亀裂、段差、隙間などがないか、床全体が平滑であるかを調べてください。平滑性に欠け凹凸のある床は、接着剤を均一に塗布できません。凹部に接着剤だまりをつくり、ジョイントから接着剤がはみ出す原因になったり、溶剤によるガスで膨れの原因になったりします。凸部は接着剤の塗布量が少なくなることで接着力が低下したり、施工後の部分的な摩耗の原因になり、耐久性に支障をきたすことになります。階段の蹴上げ部も不陸を必ずチェックして基準値内におさめるようにしてください。

●汚れ

下地の汚れは、接着剤の接着力を落とすばかりでなく、床材の変色を招く場合があります。そのためゴミや埃、モルタルかすが残っていないか、油や錆がついていないかなどを調べてください。特に塗料や防蟻剤、防腐剤、オイルステン配管用接着剤などの油を含む汚れは、施工後に床材の変色・変質を起こす恐れがあるので注意してください。

●湿気

下地の乾燥不足は、どんな接着剤でも施工不可能です。水分計やポリエチレンフィルム、バーナーなどを使い下地の乾燥状態を判断してください。下地の乾燥とともに立地条件、下地自体の構造、素材についても注意してください。

●強度

下地の粉吹き・ざらめ・浮きなどがなく十分な強度が必要です。

●取り合い

床下地の壁面に対する取り合いを確認してください。確認項目は以下のとおりです。

- ・床面と壁面の取り合い部に四方でレベルの狂いがいないか。
- ・扉開口部の床面のレベルが、床材の厚み分上がっても問題ないか。

2. 清掃

床にコンクリートかすのゴミ、埃などが残っていると接着剤の塗布に支障をきたすばかりでなく、接着剤の接着力不足の原因になったり、施工後の仕上がりにも影響します。大きなゴミから取り除いた後、埃やチリなどを掃き取ってください。床面積が広い場合、一度に清掃すると場所によって十分にきれいにならなかったり、施工中に再び汚れたりするので、当面施工に必要な部分から清掃してください。清掃後は工事関係者の出入りを禁止し、ゴミや埃を持ち込まないようにしてください。

3. 下地調整

下地の状況に応じて補修、表面補強を適切に行ってください。またその際に使った補修材、補強材によって下地自体の性能が変わることもあるため注意が必要です。

4. 使用商品の確認

施工前に必ず、商品番号、ロット番号、サイズ、数量を確認してください。色ムラを防ぐために、できる限り取り合いのある箇所は同ロットの商品で流れ方向を合わせて施工してください。

下地の乾燥状態の判断方法

■水分計を使用する方法

水分計の接地面が平らでゴミやチリがなく、通風のない場所を選んで下地水分の測定を行ってください。

■ポリエチレンフィルムを利用する方法

約1m角のポリエチレンフィルム(ゴミ袋など)を下地に広げ、空気が逃げないように四方をガムテープで貼り、24時間放置する。その後、フィルム内側に付いた水滴や下地の変色状態を観察し判断してください。

■バーナーを利用する方法

バーナー(トーチランプ)を用い下地表面をあぶり、水滴の有無や変色状態を観察し判断してください。

グレード	水分計*		水分計以外での確認方法		施工方法の目安
	選択 D.MODE	従来の水分指標	ポリエチレンフィルム	バーナー	
I	440未満	8%以下	24時間後変化なし	下地表面に変化なし	一般工法
IIa	440以上 620未満	8～10%	24時間後黒ずみ(輪郭不明瞭)	下地表面が黒ずむ	耐湿工法
IIb	620以上	10%以上	24時間後に変色結露が見られる	下地表面に水滴が浮く	施工不可

*使用水分計: 株式会社ケット科学研究所
高周波静電容量式水分計「HI-520-2」D.MODE選択による

■株式会社ケット科学研究所製「コンクリート、モルタル水分計 HI-520-2」による水分測定方法(表面から40mm程度まで)

●測定手順

- ①測定対象床下地から、測定対象箇所を適宜選定する。
- ②水分計の各ダイヤルを以下の通りセットする。
D.MODE (厚さ:40mm程度、温度:AUTO設定)
- ③水分計を測定対象箇所の床下地表面に置き、表示値を読み取る。
測定は水分計を置く位置を適宜ずらしながら数回行い、平均的な表示値を求めることとする。

●測定結果の評価: 測定表示値を左記表グレードで判断し施工方法の判定を行う。

測定対象範囲	測定対象範囲		HI-520-2	
	測定対象範囲	測定対象範囲		
コンクリート	0～12%	0～12%		
モルタル	0～15%	0～15%		
ALC	0～100%	0～100%		
人工軽量骨材コンクリート	0～23%	0～23%		
石膏ボード	0～50%	0～50%		
ケイ酸カルシウム板	0～15%	0～15%		
D.MODE	0～1999	0～1999		
S.MODE	0～1100	0～1100		
測定方式	高周波容量式(20MHz)	消費電力		350mW
表示方法	デジタル(LCD、表示最小桁0.1%)	寸法・質量		72(W)×146(D)×118(H)mm、0.39kg
電源	電池 9V(O06P アルカリ)×1	付属品	ソフトケース、電池、取扱説明書	

ノンスキッド 施工説明

基本手順



1. 下地の確認・清掃

砂やチリ、埃などを除去し、適切な下地処理を行い、下地が十分に平滑で乾燥していることを確認してください。
 ※平鋼板下地は、エポキシ系防錆塗料で十分な防錆処理をしてください。
 ※詳細は「施工前の共通手順」(P.527)を参照してください。

2. 割り付け

ジョイントが多いと仕上がりが美しくないため、出来る限りジョイントを少なく割り付けてください。長手方向にジョイントを合わせてください。また小さなサイズは、美観を損ねるだけでなく、接着不良による浮き剥がれの原因になるため出来る限り発生しないように割り付けてください。出入口部は踏み込みが多く、ジョイントから傷みや剥がれが起きやすいため、出来る限りジョイントをしないようにしてください。



3. 荒切り・色柄合わせ

施工場所の形などに合わせて割り付けし、それに基づいて実寸法より5cmほど長めに荒切りしてください。
 柄物は、1柄分余分に長く裁断し柄合わせをしてください。丈継ぎの必要がある場合は、さらに1柄分長く裁断し、丈継ぎのジョイントと合うように柄を合わせてください。

4. 仮敷き

現場の環境になじませ、運搬時の巻き癖、伸縮などを取り除くために荒切りして仮敷きしてください。特に低温時や寒冷地の場合、シートが硬くなっているため十分な仮敷き時間をとってください。

5. 裁断

《巾定規による壁際の裁断》

巾定規は、壁面に対して床材の端が、ピッタリと沿うように裁断する道具です。巾定規の先端にカッターナイフをあて、壁方向に沿わせるように力を加えながら手前方向にカットしてください。



《ジョイントの裁断》

ジョイント部は隙間なくピッタリと納まるのが大切となるため、落とし込みまたはリノカッターなどを用いて、けがいてからカットしてください。

6. 接着剤の塗布

ウレタン樹脂系溶剤形接着剤WPX (BB-479・480)・WG (BB-601～603)を使用します。塗布する際は、専用クシ目を使用してムラがないように均一に接着剤を塗布してください。

《接着剤の塗布の仕方》

周囲の壁際を先に切り込んでからシートを接合部から幅方向に向かって左右に折り返し(幅折り返し)、その部分に接着剤を塗布し圧着してください。そして残りの半分をそれぞれ折り返し接着してください。

7. ノンスキッドの貼り付け・圧着・エア抜き

オープンタイムを取り、貼り付け可能時間内にシートを貼り付け、しごき板でエア抜きしてから圧着時間内にローラーをかけてください。空気だまりがある場合は、しごき棒などで目地の方向に向かって押し出してください。空気だまりは下地の湿気の影響を受けて膨れの原因になりやすいため、小さなものでも見逃さず必ず取り除いてください。ヒートガンやトーチランプなどを使用する場合は、熱風の温度が高すぎると、シート表面が溶解しツヤが出る場合がありますので、温度に注意して施工を行ってください。

8. 継ぎ目処理

継ぎ目処理は専用の溶接棒を用いて熱溶接をしてください。

●溝切り

シートの貼り付け・圧着の後、接着剤が完全に硬化してから、継ぎ目部分をU字もしくはV字に溝切りします。
 ※溝の深さは、シートの厚みに対して2/3程度としてください。
 ※ジョイント箇所は、溶接後の水掃けを考慮しエンボスの一番低い部分でジョイントしてください。

●熱風溶接

専用溶接機ライスターを使用して目地部分を溶接します。
 ※熱風の温度が高すぎると、ジョイント周辺のシート表面が溶解し、ツヤが出る場合がありますので十分に注意してください。

●余剰部分カット

溶接棒が十分に固まった状態でスパトラナイフなどを用いて余剰部分をカットします。
 ※溶接棒が固まる前にカットすると、後に溶接棒がヤセ、凹みとなる場合がありますので十分注意してください。

9. 端部仕上げ

ノンスキッドの端末には、専用シール材であるWPシール・HSシールを充填して処理してください。

●シーリング部の確認

シーリングを施す面が、ゴミや埃などによって汚れていないかを確認してください。汚れている場合は清掃し、また湿気のある場合は十分に乾燥させてから作業を行ってください。

●プライマー塗布

WPプライマー(BB-613)を下地に塗布してください。その上で十分に乾燥させてから次の工程に移ってください。

●マスキング処理

仕上がりを美しくするために、シーリング部分にマスキングテープを貼りマスキング処理をしてください。

●充填と仕上げ

気泡を取り込まないようにシーリング面に均一になるように充填し、充填後は平らになるようにヘラで整えてください。ヘラ仕上げの際に、気泡の取り込みによりへこみが生じた場合は、すぐにシール材をやや多めに充填し、再びヘラで仕上げてください。最後にマスキングテープを剥がしてください。その際テープに付いたシール材で床を汚さないように注意してください。



10. 養生

施工完了後、床材の浮き、膨れ、剥がれ、突き上げなどの不備や接着剤による汚れがないかを確認します。施工後の汚れや破損を防止するため、必要に応じて養生シートなどで保護してください。また、シール剤が完全に硬化するまでは、シール部分を踏んだり、ブラシなどでの清掃はお避けください。接着剤が完全に乾燥固化するまでは、突き上げ・目録・膨れなどを発生させる恐れがあるので、重量物などのキャスターによるしごきはお避けください。

ノンスキッド・ステップ(踏み面タイプ) 施工説明

基本手順



1. 下地の確認・清掃

砂やチリ、埃などを除去し、適切な下地処理を行い、下地が十分に平滑で乾燥していることを確認してください。
※平鋼板下地は、エポキシ系防錆塗料で十分な防錆処理をしてください。

2. 蹴上げ部用のシート裁断

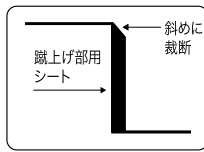
※2~4は蹴上げ部シートを施工する場合のみ。
階段蹴上げ部の幅、高さを測定し、蹴上げ部用シートの長手方向が階段蹴上げの幅方向となるように裁断してください。

3. 蹴上げ部への接着剤の塗布

階段蹴上げ部にWG(BB-601~603)を塗布してください。
※オープンタイムは10~15分程度が目安です。

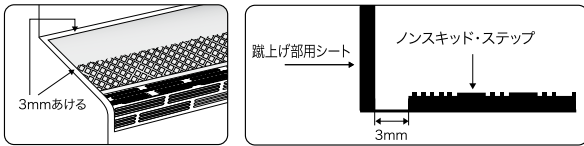
4. 蹴上げ部用のシート貼り付け

貼り付け後はハンドローラーなどで十分圧着してください。
蹴上げ部用シート上端部は斜めに裁断してください。



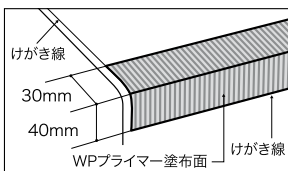
5. ノンスキッド・ステップの裁断

踏み面部の幅、奥行きを測定し、シール剤(端部処理剤)の仕上げりとして3mm程度短く裁断してください。
左右両端部をあけて施工する場合、あらかじめ下地にあける寸法をけがき、幅を測定してください。
階段に排水溝がある場合は、排水溝より5~15mm程度手前でノンスキッド・ステップを裁断してください。



6. 段鼻部下地へのプライマー処理

段鼻部の下地には、必ずプライマー処理を行ってください。

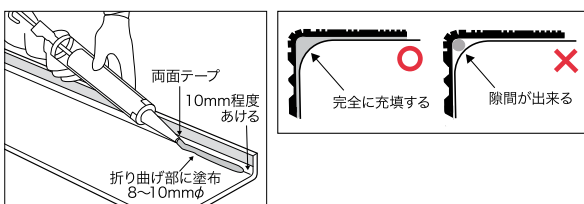


図の斜線部の下地に、WPプライマー(BB-613)をハケで均一に塗布し、30分程度乾燥させてください。
WPプライマー塗布面は、汚さないように注意してください。

7. ノンスキッド・ステップ段鼻裏面への接着剤の塗布

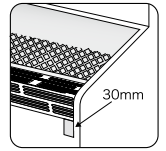
ノンスキッド・ステップ段鼻の裏面に、WPステップカートリッジ(BB-604)を8~10mmφの太さで、塗布してください。
両端より10mm程度内側まで塗布してください。
ノンスキッド・ステップを貼り付けるとき、段鼻裏面から蹴上げ部に接着剤が行き渡り、強固に接着出来ます。
※オープンタイムは10~20分程度が目安です。

WPステップを塗布しなかったり、塗布量が不十分な場合、段鼻部の亀裂や剥離が発生する場合がありますので、ご注意ください。



8. 踏み面部への接着剤の塗布

WG(BB-601~603)を踏み面部全体(段鼻部の前垂れ部は含まず)にくし目ゴテで塗布してください。
※オープンタイムは10~15分程度が目安です。

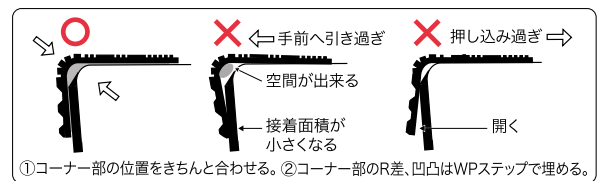


9. 両面テープ剥離紙の剥がし

ノンスキッド・ステップ裏面に貼り付けてある両面テープの剥離紙を30mm程度剥がしてください。

10. ノンスキッド・ステップの貼り付け

ノンスキッド・ステップの折り曲げ部分を階段の段鼻部に合わせ、折り曲げ部に空洞が生じないように貼り付けてください。



11. 圧着

ノンスキッド・ステップの踏み面部をハンドローラーなどで圧着してください。

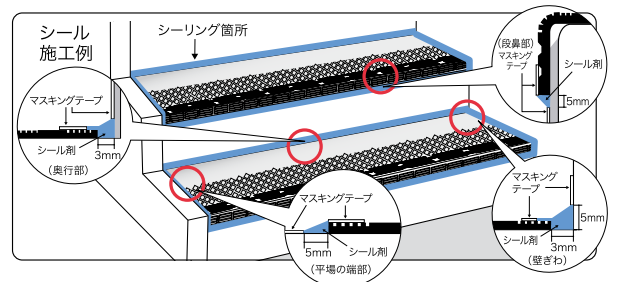
接着剤のはみ出し、商品の变形が発生する場合がありますので、段鼻部は圧着し過ぎないようにご注意ください。
剥離紙を全て剥がし、ローラーで圧着してください。

12. 継ぎ目処理

ノンスキッド・ステップとノンスキッドの継ぎ目は、接着剤が硬化してから、専用溶接棒を用いて熱溶接してください。

13. 端部仕上げ

ノンスキッド・ステップ蹴込みシート端部を、5mm幅程度に仕上がるようにマスキングテープで養生してください。
各種シール剤で周囲の端部をすべてシーリングします。
シーリング後、仕上げ用ヘラで仕上げ、マスキングテープを剥がします。



※ノンスキッド・ステップ(踏み面タイプ)のみの施工の場合です。蹴上げ部にシートを施工する際は、蹴上げ部両サイドもシーリングしてください。

14. 養生

清掃後、接着剤とシール剤が硬化するまで歩行を控えてください(48時間程度)。

特に、接着剤が硬化する前に段鼻部の角を踏まないようご注意ください。段鼻部が変形したまま接着剤が硬化しますと、剥離や亀裂が発生する恐れがあります。

専用接着剤の標準塗布量

		910mm巾	1210mm巾
BB-602	WG10kg缶	110段/缶	82段/缶
BB-604	WPステップ カートリッジ×2本セット	20段/セット	14段/セット
BB-613	WPプライマー400g缶	79段/缶	59段/缶

※踏み面の奥行き250mmを想定し算出しています。

ノンスキッド・ステップ(蹴込み一体タイプ) 施工説明

基本手順



1. 下地の確認・清掃

砂やチリ、埃などを除去し、適切な下地処理を行い、下地が十分に平滑で乾燥していることを確認してください。
※鋼板下地は、エポキシ系防錆塗料で十分な防錆処理をしてください。

2. 最下段蹴上げ部用のシート裁断

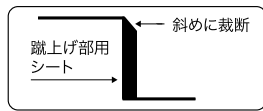
最下段の蹴上げ部の幅、高さを測定し、ノンスキッド・ステップを裁断して蹴上げ部用シートとして使用してください。
残った材料は最上段の踊り場で使用します。

3. 最下段蹴上げ部への接着剤の塗布

最下段の蹴上げ部にWG(BB-601~603)を塗布してください。
※オープンタイムは10~15分程度が目安です。

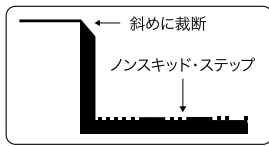
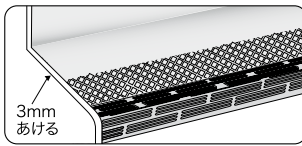
4. 最下段蹴上げ部用のシート貼り付け

貼り付け後はハンドローラーなどで十分圧着してください。
蹴上げ部用シート上端部は斜めに裁断してください。



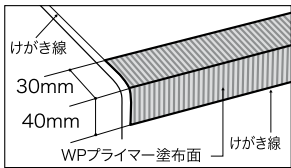
5. ノンスキッド・ステップの裁断

踏み面部の幅・奥行き、蹴上げ部の幅・高さを測定し、シール剤(端部処理剤)の仕上げしとして幅は3mm程度短く裁断してください。
左右両端部をあけて施工する場合、あらかじめ下地にあける寸法をけがき、幅を測定してください。
階段に排水溝がある場合は、排水溝より5~15mm程度手前でノンスキッド・ステップを裁断してください。



6. 段鼻部下地へのプライマー処理

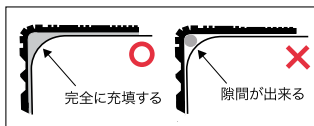
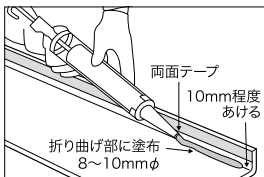
段鼻部の下地には、必ずプライマー処理を行ってください。



図の斜線部の下地に、WPプライマー(BB-613)をハケで均一に塗布し、30分程度乾燥させてください。WPプライマー塗布面は、汚さないように注意してください。

7. ノンスキッド・ステップ段鼻裏面への接着剤の塗布

ノンスキッド・ステップ段鼻の裏面に、WPステップカートリッジ(BB-604)を8~10mmφの太さで、塗布してください。
両端より10mm程度内側まで塗布してください。
ノンスキッド・ステップを貼り付けるとき、段鼻裏面から蹴上げ部に接着剤が行き渡り、強固に接着出来ます。
※オープンタイムは10~20分程度が目安です。
WPステップを塗布しなかったり、塗布量が不十分な場合、段鼻部の亀裂や剥離が発生する場合がありますので、ご注意ください。



8. 接着剤の塗布

WG(BB-601~603)を、踏み面及び蹴上げ部全体(段鼻部の前垂れ部は含まず)にくし目ゴテで塗布してください。
※オープンタイムは10~15分程度が目安です。

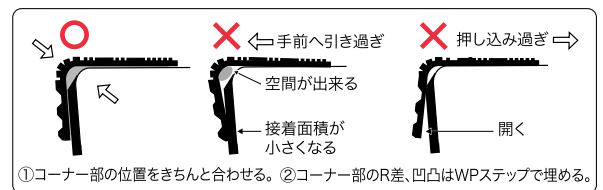


9. 両面テープ剥離紙の剥がし

ノンスキッド・ステップ裏面に貼り付けてある両面テープの剥離紙を30mm程度剥がしてください。

10. ノンスキッド・ステップの貼り付け

ノンスキッド・ステップの折り曲げ部分を階段の段鼻部に合わせ、折り曲げ部に空洞が生じないように貼り付けてください。



11. 圧着

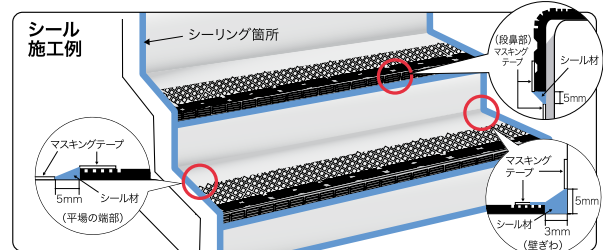
ノンスキッド・ステップの踏み面及び蹴上げ部をハンドローラーなどで圧着してください。
接着剤のはみ出し、商品の变形が発生する場合がありますので、段鼻部は圧着し過ぎないようにご注意ください。
剥離紙を全て剥がし、ローラーで圧着してください。

12. 継ぎ目処理

ノンスキッド・ステップとノンスキッドの継ぎ目は、接着剤が硬化してから、専用溶接棒を用いて熱溶接してください。

13. 端部仕上げ

ノンスキッド・ステップ端部を、5mm幅程度に仕上がるようにマスキングテープで養生してください。
各種シール材で周囲の端部をすべてシーリングします。
シーリング後、仕上げ用ヘラで仕上げ、マスキングテープを剥がします。



14. 養生

清掃後、接着剤とシール剤が硬化するまで歩行を控えてください(48時間程度)。
特に、接着剤が硬化する前に段鼻部の角を踏まないようご注意ください。段鼻部が変形したまま接着剤が硬化しますと、剥離や亀裂が発生する恐れがあります。

専用接着剤の標準塗布量

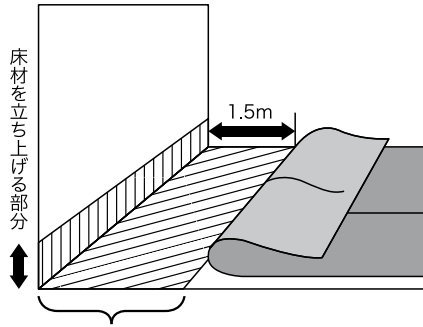
		910mm巾	1210mm巾
BB-602	WG10kg缶	60段/缶	46段/缶
BB-604	WPステップカートリッジx2本セット	20段/セット	14段/セット
BB-613	WPプライマー400g缶	79段/缶	59段/缶

※踏み面の奥行き250mm、蹴上げの高さ200mmを想定し算出しています。

巻き上げ 施工説明

1.床面への施工

床材を巾木の代わりとして巻き上げるため、巻き上げに必要な面積を荒切り時から計算して残しておき、床材を施工します。



斜線の部分は、後から接着剤を入れます。

2.巻き上げ部分を施工

巻き上げ部分の壁に接着剤を塗布し床材を巻き上げて貼付します。床材が硬くて巻き上がらないときは、トーチランプ等で温めて柔らかくしながら施工してください。必要に応じて面材 (PM-22610・22620) を使用してください。

モールを使用する場合

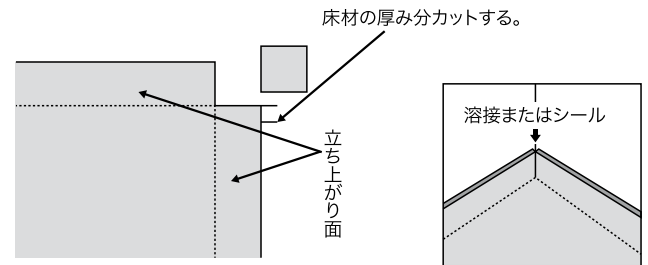
巻き上げ高さ天端の墨線に沿ってモール (PM-22630～22690) を貼り付けていきます。モールには両面テープが施してありますが、下地によってはモールの端部や裏面にベンリグイン瞬間ゼリー (BB-589) を塗布してください。巻き上げ部へ床材を貼り付け後、モールの床材飲み込み部下線に沿ってフックカッター等で隙間が生じないように切り込んでください。

3.ジョイントの施工

ジョイントの施工は接着剤が硬化したのを確認してから熱溶接やパーフェクトシームジェルチューブ入り (BB-394) で処理してください。接着剤の硬化を十分に得られないとジョイント部の剥がれに繋がるため、貼り付け後24時間養生してください。

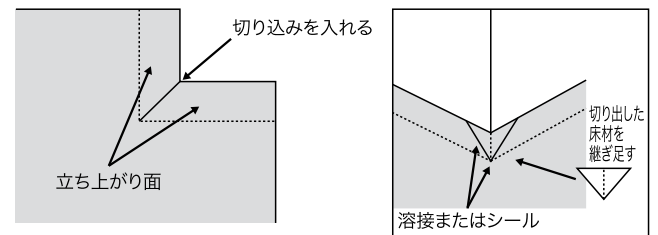
入隅処理

入隅部分に合せて角を四角く切り込み、施工します。継ぎ目部分は熱溶接やパーフェクトシームジェルチューブ入り (BB-394) で処理してください。



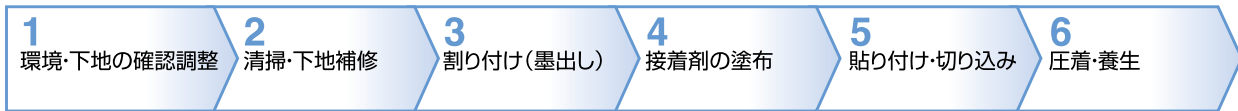
出隅処理

出隅部分に合せて床材を切り込み、出隅部分は端材などから切り出して継ぎ足します。継ぎ目部分は熱溶接やパーフェクトシームジェルチューブ入り (BB-394) で処理してください。巻き上げ施工において、特に出隅部分の施工が困難であり、慎重に施工してください。必要に応じて面材出隅材 (PM-22611・22621) を使用してください。



ブリードヘキサ・プレーンヘキサ 施工説明

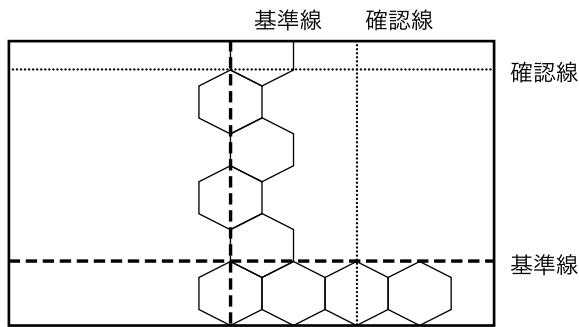
■基本手順



施工の基本手順(1.環境・下地の確認調整、2.清掃・下地補修、6.圧着・養生)は一般的なフロアタイル(複層ビニル床タイル)施工に準じます。

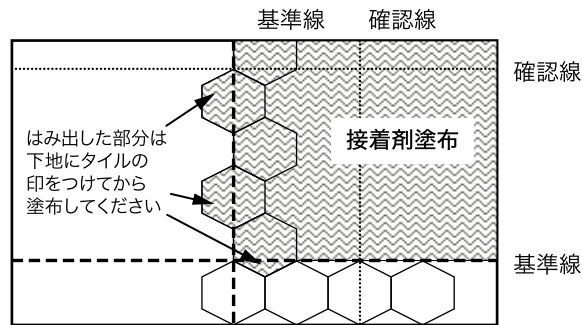
3.割り付け(墨出し)

壁際のタイルの納まりを考慮した割り付けを行い、基準線を引いてください。
 貼り進める際に、必要に応じてタテ・ヨコに確認線を引きながら、ズレがないように貼り付けてください。



4.接着剤の塗布

区画を分けて接着剤を塗布する際は、基準線からはみ出して施工するタイルの箇所には、下地にタイルの位置の印をつけてから塗布してください。

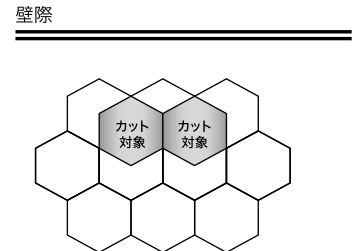


5.貼り付け・切り込み

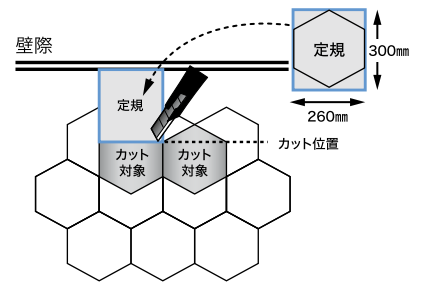
壁際の仕上げは、定規またはタイルを使用する手法が可能です。

パターン1

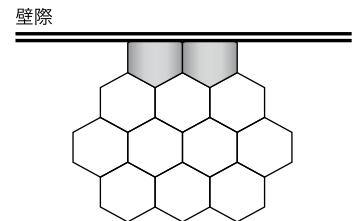
①
 カット対象のタイルを1枚手前の貼り付け済のタイルの上に図のように置きます。



②
 6つの角に接する定規(260mm×300mm)を作成しカットするタイルの上に定規を載せてカットします。

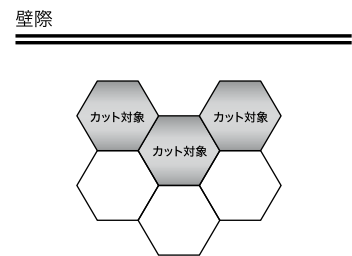


③
 カットしたタイル片をはめ込みます。

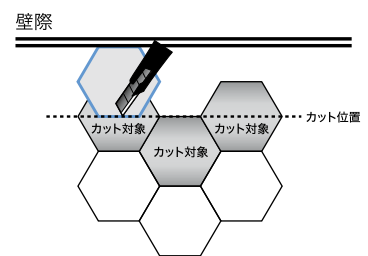


パターン2

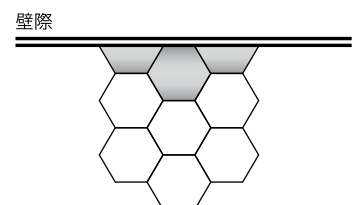
①
 カット対象のタイルを1枚手前の貼り付け済のタイルの上に角・辺を合わせて重ねて置きます。



②
 同方向のタイルを定規にし、タイルをカットします。



③
 カットしたタイル片をはめ込みます。

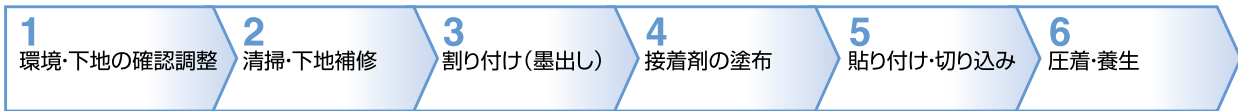


■注意事項

- 一般的な形状に比べ施工難易度が高いため、施工費が大幅に割増しになる場合があります。
- カッティング精度には充分注意していますが、各タイルの寸法にズレがある場合には、パーフェクトコークを充填するなど施工時に目地調整をお願いします。
- 品番の異なる商品を組み合わせる場合、寸法差が生じることがありますので、お含みおさください。
- 施工時には目地の詰めすぎに注意し、タイルがズレないように確認しながら貼り進めてください。

シェブロンウッド 施工説明

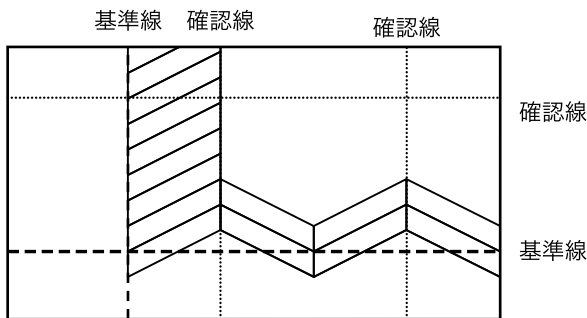
■基本手順



施工の基本手順(1.環境・下地の確認調整、2.清掃・下地補修、6.圧着・養生)は一般的なフロアタイル(複層ビニル床タイル)施工に準じます。

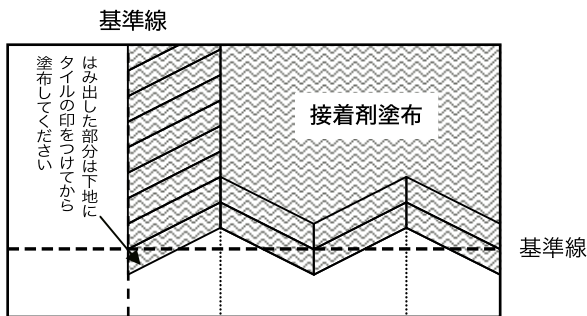
3.割り付け(墨出し)

壁際のタイルの納まりを考慮した割り付けを行い、基準線を引いてください。
貼り進める際に、必要に応じてタテ・ヨコに確認線を引きながら、ズレがないように貼り付けてください。

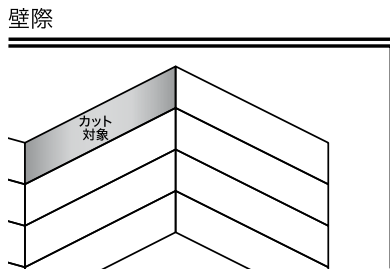


4.接着剤の塗布

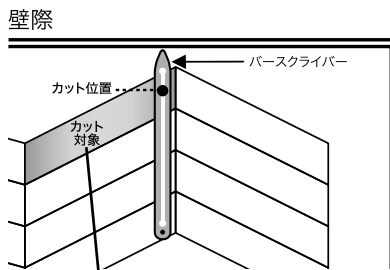
区画を分けて接着剤を塗布する際は、基準線からはみ出して施工するタイルの箇所には、下地にタイルの位置の印をつけてから塗布してください。



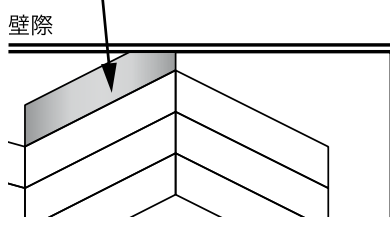
5.貼り付け・切り込み



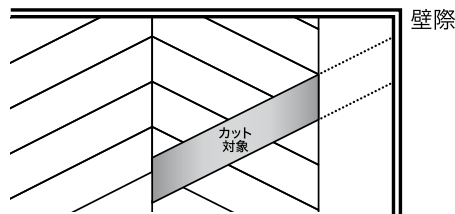
① 図のようにカット対象のタイルを1枚手前の貼り付け済のタイルの上に角・辺を合わせて重ねて置きます。



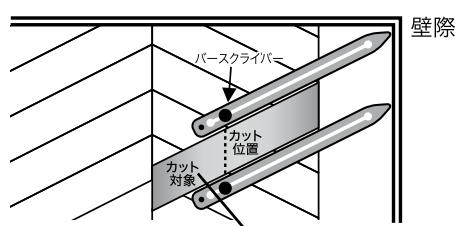
② タイルを貼り込む短手の寸法を基準としてパースクライバーを壁に沿ってスライドさせながらマーキングしてカットします。(パースクライバーの設定は短手の一辺の寸法)



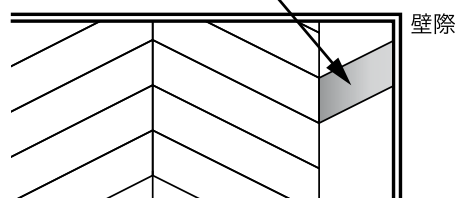
③ カットしたタイル片をはめ込みます。



④ 図のようにカット対象のタイルを延長線上にある1列手前の貼り付け済のタイルの上に短手の辺を合わせて重ねて置きます。



⑤ タイルを貼り込む長手の寸法を基準として延長線上の両端をマーキングしてカットします。(パースクライバーの設定は長手の一辺の寸法)



⑥ カットしたタイル片をはめ込みます。

■注意事項

- 一般的な形状に比べて施工難易度が高いため、施工費が大幅に割増しになる場合があります。
- カッティングの精度には十分注意していますが、各タイルの寸法にズレがある場合にはパーフェクトコークを充填するなど施工時に目地調整をお願いします。

リフォタ 施工説明

■基本手順



1. 環境・下地の確認

施工時の環境(湿気・温度)を確認してください。
 下地がモルタル下地の場合、十分に乾燥しているかを確認してください。
 ※下地の水分レベルはグレード1(水分計HI-520-2のD.MODEで440未満)としてください。
 合板下地の場合、釘止めで、釘頭は良く打ちこんであることを確認してください。下地のたわみや段差がないか確認してください。
 砂や塵、埃等を除去し、適切な下地処理を行い、平滑でよく乾燥し、強固であることを確認してください。下地に不陸や隙間(フローリングの目地隙など)があるまま施工すると、施工後にタイルの表面に不陸や隙の形状が陰影として映ることがあります。
 貼り替えの場合、下地に残った接着剤はきれいに除去、または下地補修材で平滑に仕上げてください。

施工可能な下地

コンパネ/モルタル/クッションフロア(3.0mm厚未満)/フローリング(バックングの無いもの)

施工できない下地

フリーアクセスフロア/クッションバックング付きのフローリング/3.0mm厚以上のクッションフロア/クッション性が高く沈み込みの激しい床材等
 ※制電タイプのタイルではありませんので、帯電防止性能を求められる場所での使用は避けてください。

2. 清掃

床の汚れ・ゴミ・塵などは接着剤の効力を弱めクレームの原因に繋がるため、清掃をしっかりと行ってください。

3. 下地補修

下地の確認を行った時点で、下地の亀裂や平滑でない部分は、床用の下地調整材で補修してください。

4. 割り付け(墨出し)

基準線を中心にして左右対称になるよう墨を打ってください。壁際には商品サイズの半分以下の端物が入ることは、できる限り避けてください。そういった場合は基準線を中心からずらしていただく事をおすすめします。

5. 接着剤の選択・塗布

①かんたんリフォーム工法(ピールアップ工法)

GTS(BB-558・588)を専用ヘラ(BB-401)またはローラー(中毛)で平滑に塗布してください。専用接着剤GTSの塗布量は100g~150g/m²です。糊だまりや塗りムラがあると表面に塗布跡が現れる場合があります。ローラーで塗布する場合は、厚塗りを行ってください。(1度塗りでは50g/m²しか塗布できません。)
 塗布量が少ないと、接着力が不足し、突き上げや目隙の原因となります。

②一般工法(接着工法)

PC-2(BB-576・577)をご使用ください。
 ※完全接着するため剥がしにくくなります。
 ※気温、下地を考慮し、各接着剤の適切なオープンタイムを取ってください。

③耐湿・耐熱工法(水分が高い、または耐熱が求められる場合)

EP-300(BB-575・584)・WPX(BB-479・480)・WG(BB-601・602・603)をご使用ください。
 ※完全接着するため剥がしにくくなります。

▶**注意** 吸水性の高い下地や、下地補修材で調整を行った箇所は、塗布量を増やしてください。
 常に直射日光が当たる場合、床暖房を使用される場合は、耐熱工法を行ってください。

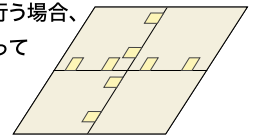
6. 貼り付け

施工時の環時の室温は15~30℃を保ってください。施工時の室温とタイルに温度差があると、施工直後だけではなく、後日、目地隙き、突き上げが生じる可能性があります。

▶**注意** 10℃以下での施工は避けてください。

タイルの詰めすぎは、突上げの原因になりますのでお避けください。
 夏場などの高温時は、『きつめ』に施工してください。

やむなく15℃以下でピールアップ工法を行う場合、同梱のスペーサー(0.2mm厚)を切り取って使用してください。



タイルにガラス織布が入っているため、通常のタイルよりもしっかりとカッターを入れてください。
 壁際、柱まわりに使用するタイルは、垂直にカットし、1~2mmゆとりを持たせて、貼り付けてください。

7. 圧着

施工後はボンドローラーなどでよく圧着してください。
 スペーサーの除去は圧着前に行ってください。
 スペーサーをはずすタイミングが早いと、タイルがずれてしまう場合がありますので注意してください。

8. 養生

施工直後はタイルの上をできるだけ通行しないようにするか、通気性のあるシートで表面を覆い、汚れが付かないようにしてください。
 急激な温度変化によって、目地の突き上げや、表面の変退色が起こることがあります。

▶**注意** 直射日光が当たる場所ではカーテンなどで必ず日除けを行ってください。一般工法の場合は1週間程、耐湿・耐熱工法の場合は2日間程の養生が必要です。

リフォルタ 框材・見切材 施工説明

■基本手順



■框(かまち)材

玄関などタイルの側面が横から見えてしまう場合にご使用ください。

1. 環境・下地の確認

施工時の環境(湿気・温度)を確認してください。
下地がモルタル下地の場合、十分に乾燥しているかを確認してください。
※下地の水分レベルはグレードI(水分計HI-520-2のD.MODEで440未満)としてください。
合板下地の場合、釘止めで、釘頭は良く打ちこんであることを確認してください。下地のたわみや段差がないか確認してください。

砂や塵、埃等を除去し、適切な下地処理を行い、平滑でよく乾燥し、強固であることを確認してください。下地に不陸や隙間(フローリングの目地隙など)があるまま施工すると、施工後に框材の表面に不陸や隙の形状が陰影として映ることがあります。

貼り替えの場合、下地に残った接着剤はきれいに除去、または下地補修材で平滑に仕上げてください。
下地は新規もしくは施工可能な既存の上り框、床材に施工してください。

2. 清掃・下地補修

砂や塵、埃等を除去し、ひびやカケがあれば、適切な下地処理を行ってください。下地に不陸や隙間がある状態で施工すると、施工後に接着不良や段差、不陸の原因となります。

3. 框材のカット

框材を施工場所に合わせてカットしてください。

4. 接着剤の選択・塗布

【工法1】下地に接着剤を塗布する工法

余分な箇所に接着剤がはみ出さないようにマスキングテープを貼り、接着剤を塗布します。框部分は普段の生活の中でも荷重や負荷のかかる部分ですので、より接着強度のあるWPX(BB-479・480)・WG(BB-601・602・603)を使用してください。



【工法2】框材に接着剤を塗布する工法

框材に仮止め用に両面テープを角の溝部分から少し離れたところへ、溝の両側に貼ります。両面テープの離型紙に被るくらいに接着剤を塗布します。接着剤はWPX(BB-479・480)・WG(BB-601・602・603)を使用してください。また接着剤が商品の表側に付着しないよう注意してください。

*BB-302 両面テープ



段鼻(角の部分)の補強

角に当たる段鼻部分は、特に負荷が掛かる場所ですので、工法1、2とも強度を上げるため、框材の裏面の溝に変成シリコン樹脂系シーリング剤、変成シリコン樹脂系または、シリル化ウレタン樹脂系接着剤を塗布してください。

*HSシール(BB-553~555、562~564、574)

*副資材(推奨品) ※以下の商品の同等品での施工が可能です。
セメダイン(株) スーパーXシリーズ(変成シリコン樹脂系接着剤)
コニシ(株) ウルトラ多用途SUシリーズ(シリル化ウレタン樹脂系接着剤)

5. 貼り合わせ・圧着

オープンタイムを取ってから、下地に框材を貼り合わせ、ローラーでよく圧着します。

6. リフォルタの施工

框を先に取り付けてからリフォームタイル「リフォルタ」の施工を行います。タイル用接着剤が框材に付着しないように養生をしてください。

■見切材

リフォルタの小口の処理にご使用ください。

※上から貼るだけで簡単に施工ができます。

①見切り材のカット

見切材を施工場所に合わせてカットしてください。

②貼り付け

裏面の両面テープの離型紙を剥がし、約5cm間隔で瞬間接着剤を塗布してください。

*BB-546 ペンリダイン瞬間
*BB-589 ペンリダイン瞬間ゼリー

見切材をつなげて施工する場合は、見切材の断面にも瞬間接着剤を塗布してください。

ローラーでよく圧着してください。

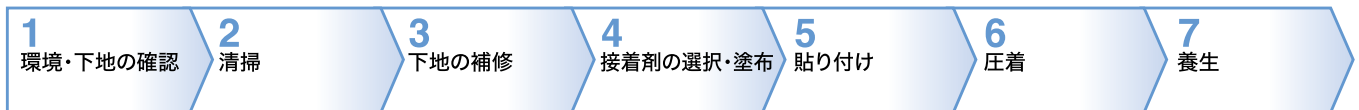


■注意事項

保管場所
高温場所(50°C以上)での保管は避けてください。

OT 置き帯電防止ビニル床タイル 施工説明

■基本手順



■OTの施工

1. 環境・下地の確認

施工時の環境(湿気・温度)を確認してください。
 下地がモルタル下地の場合、十分に乾燥しているかを確認してください。
 ※下地の水分レベルはグレードI(水分計HI-520-2のD.MODEで440未満)としてください。
 合板下地の場合、釘止めで、釘頭は良く打ちこんであることを確認してください。下地のたわみや段差がないか確認してください。
 砂や塵、埃などを除去し、適切な下地処理を行い、平滑で良く乾燥し、強固であることを確認してください。下地に不陸や隙間(フローリングの目地隙など)がある状態で施工すると、施工後にタイルの表面に不陸や隙の形状が陰影として映ることがあります。
 貼り替えの場合、下地に残った接着剤はきれいに除去、または下地補修材で平滑に仕上げてください。
 二重床の場合、下地パネルの段差は1mm以内・隙間は2mm以内に調整し、下地パネルがしっかりと固定されて動かないこと、たわまないことを確認してください。パネルの表面は凹凸の無いものを使用してください。
 下地パネルの種類や表面形状によってはOTの施工に適さない場合があります。

下地OAフロアに関して

固定式ではないOAフロアの場合、下地パネル自体が歩行や温度変化で動く場合があります。
 下地が動くことでタイルの突き上げや反り、目地隙やズレに繋がる場合があります。
 表面形状がフラットではなく凹凸があり、またメッシュ形状になっているなど、OTと接する面積が少ないOAフロアの場合、接着力が不足し接着不良に繋がる場合があります。
 OAフロアの表面形状によってはタイル表面に陰影が浮き出ることがあります。

2. 清掃

床が汚れ・ゴミ・塵などは接着剤の効力を弱め、クレームの原因に繋がるため、清掃をしっかりと行ってください。

3. 下地の補修

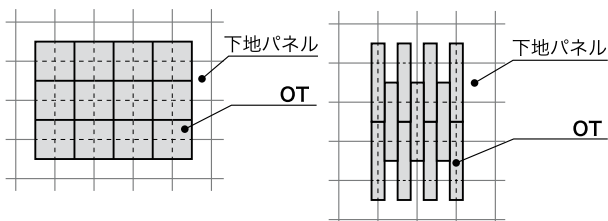
下地の確認を行った時点で、下地の亀裂や平滑でない部分は、床用の下地調整材で補修してください。

4. 接着剤の選択・塗布(置き敷き工法の場合)

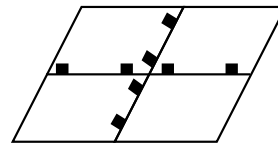
モルタルの場合:GT(BB-611・612)、GTS(BB-558・588)
 塗布量の目安は80g/m²です。
 二重床の場合:GT(BB-611・612)、GTS(BB-558・588)
 塗布量の目安は40g/m²~80g/m²です。
 ※接着剤塗布時は、スポンジローラー(中毛タイプ)を使用して下地全面に塗布してください。オープンタイムは接着剤が半透明になるまでお待ちください。塗布量が少ないと、施工後に突き上げや目隙の原因となります。下地の吸水性や表面形状、歩行頻度に応じて塗布量を増やすなど調整してください。

5. 貼り付け

室温にタイルを馴染ませてから低温時は『ゆるめ』に施工してください。タイルの詰めすぎは突上げの原因になりますので避けてください。
 二重床の場合は1/2ずらし施工(馬がけ施工)を行ってください。



15℃以下での施工の場合、同梱のスペーサーを切り取って使用してください。(目地の幅が等間隔となり、施工中のズレの防止にも役立ちます。)



タイル断面を斜めに切ると後日突上げる事がありますので垂直にカットしてください。

6. 圧着

ポンドローラーでの圧着時にスペーサーを外してください。
 スペーサーを外すタイミングが早いと、タイルがズレてしまう場合がありますので注意してください。

7. 養生

施工直後は、タイルの上をできるだけ通行しないようにするか、通気性のあるシートで表面を覆い、汚れが付かないようにしてください。通気性のないシートは使用しないでください。
 直射日光が当る場所では、カーテンなどで必ず日除けをしてください。急激な温度変化によって、目地の突き上げや、表面の変退色が起こることがあります。

■注意事項

施工場所

サーバールームなどの高い電気性能を要する場所での使用は避けください。

施工前の商品養生

箱から出して積み重ね(最大10ケースまで)、平坦な場所で24時間以上室温に馴染ませてください。

保管場所

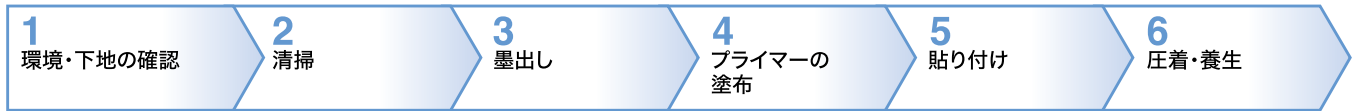
高温場所(50℃以上)での保管は避けください。

施工環境

施工環境温度は15℃以上を保ってください。

ハートビルマーカ―・テリトリーチップ 施工説明

■基本手順



■ハートビルマーカ―の施工-ワンタッチ工法

1. 環境・下地の確認

モルタル・コンクリート下地・石材・磁器タイル・ガラスブロック・ビニル床タイル・ビニル床シート・フローリング・塗り床など平滑な床材に使用できます。ジェットバーナー仕上げの石やアスファルトなど凹凸のある床面や外部では使用できません。

2. 清掃

床の貼り付け面をアルコールなどで拭き、ホコリ、汚れ、油分、水分を除去してください。

3. 墨出し

取り付け位置を墨出ししてください。

4. プライマーの塗布

モルタルや磁器タイルなど粗面の床材に取り付ける場合は、取り付け位置に専用プライマーを塗布し、十分に乾燥させてください。ハートビルマーカ―の台紙はプライマーを塗布するゲージとして使用できます。

5. 貼り付け

裏面のリケイ紙を剥がし、基準墨に合わせて貼ってください。寒冷地での施工は、チップ粘着面をドライヤーで温めて接着してください。

6. 圧着・養生

台紙の表面より、全てのチップをゴムハンマーで軽くたたいて圧着し、台紙をゆっくり取り外してください。

■テリトリーチップ-ワンタッチ工法

1. 環境・下地の確認

モルタル・コンクリート下地・石材・磁器タイル・ガラスブロック・ビニル床タイル・ビニル床シート・フローリング・塗り床など平滑な床材に使用できます。ジェットバーナー仕上げの石やアスファルトなど凹凸のある床面や外部では使用できません。

2. 清掃

床の貼り付け面をアルコールなどで拭き、ホコリ、汚れ、油分、水分を除去してください。

3. 墨出し

取り付け位置を墨出ししてください。

4. プライマーの塗布

モルタルや磁器タイルなど粗面の床材に取り付ける場合は、取り付け位置に専用プライマーをハケなどで塗布し、十分に乾燥させてください。

5. 貼り付け

テリトリーチップ裏面のリケイ紙を剥がし、基準墨に合わせて貼り付けてください。

6. 圧着・養生

指で十分に圧着してください。

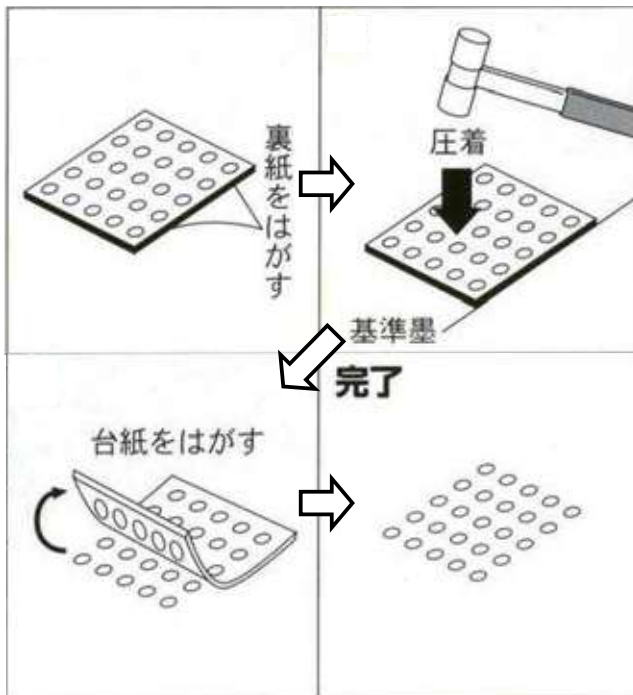
■注意事項(ハートビルマーカ―・テリトリーチップ)

屋内用です。(外部には使用できません)

石、磁器タイルなど目地がある下地の場合、目地をまたいで貼らないでください。目地上で使用する場合は下地補修材などでチップの貼り付け箇所にかかる目地を埋めて、更にプライマーを塗布してご使用ください。

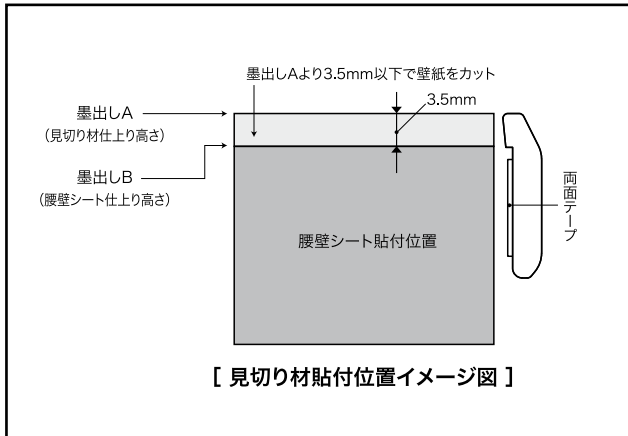
塗り床は施工可能ですが、塗装がよく密着していない場合は使用できませんので、試し貼りした上で確認してください。

テリトリーチップは床面が粗面の場合、専用接着材を使用した接着工法をお勧めします。専用接着剤・専用プライマーに関しては弊社営業担当者までお問い合わせください。



腰壁シート 施工説明

■基本手順



4.見切り材の貼り付け

- ① 出隅材、入隅材を貼り付けます。
墨出しAに沿って各部材を貼り付けてください。**必ずベンリダイン瞬間ゼリー (BB-589) を塗布し、補強してください。**
- ② 見切り材 (2000mm) を必要な寸法に正確にカットし、上記と同様に貼り付けます。ベンリダイン瞬間ゼリー (BB-589) は200mm～300mm間隔で塗布して接着ください。
※必ず、ローラーで圧着して固定してください。圧着が不足すると見切り材の剥がれ、隙間の発生に繋がります。
- ③ 見切り材同士の継ぎ目 (断面部) にもベンリダイン瞬間ゼリー (BB-589) を塗布して接着してください。
- ④ 必要に応じてエンド材を貼り付けます。施工方法は見切り材と同様です。
※見切り材 (4.5mm厚) が建具等よりも厚い場合などは、見切り材の断面を隠すためエンド材を使用します。また、半裁することで左右でご使用いただけます。

1.下地の確認・補修

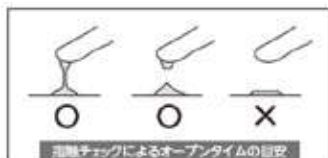
腰壁シートの厚みは1.1mmと薄いため、下地の不陸等の不具合があると、その部分がシート表面に発現します。
必ず下地にパテ処理等を行い、平滑な状態で施工してください。

2.墨出し

- ① 見切り材の仕上がり高さ (見切り材の上部位置) を設定し、墨をうってください (上図: 墨出しA)。
※施工後に拭き取れるようチョークリールをご使用ください。
- ② 墨出しAの3.5mm下 (=腰壁シートの仕上がり高さ) の位置へ水平に墨をうってください (上図: 墨出しB)。
- ③ 壁紙が貼られている場合、見切り材の仕上がり高さ (墨出しA) より3.5mm以下で壁紙をカットし、裏打ち紙まで剥がしてください。

3.腰壁シートの貼り付け

- ① AR (BB-516・517)、PC-2 (BB-576・577) を付属のヘラを用い、腰壁シートを貼り付ける壁面全体に塗布してください。
- ② 墨出し線に合せ、シートを貼り付けてください。
- ③ オープンタイムは、気温や湿度条件によりタック発現時間が異なります。必ず指触による確認を行ってください。
- ④ 腰壁シートの厚みは1.1mmと薄いため、オープンタイムを取り過ぎると、接着剤のくし目跡が凹凸の原因になり、シート表面に発現する恐れがあります。
- ⑤ 墨出し線Bに合わせ、シートを貼り付けてください。
- ⑥ 巾木は、腰壁シートの上から貼り付けるため、腰壁シートは床まで施工してください。
- ⑦ 必ずスキージ・ローラー・しごき棒等で確実にエア抜きを行いながら、貼り付けてください。
- ⑧ 腰壁シートのジョイントは原則、入隅以外で行わないようにしてください。やむを得ず入隅以外でジョイントを行った場合には、重ね切りで処理してください。また、腰壁シートの継ぎ目処理は、パーフェクトシームジェルチューブ入り (BB-394) を注入してください。
※重ね切りを行う場合は、下地を傷めないよう必ず下敷きをご使用ください。



5.コーナー材の貼り付け

- ① 出隅材、入隅材の下部から床面までの長さを正確に測り、コーナー材をカットしてください。
- ② 片方の剥離紙を剥がしてから、位置を決め、腰壁シート面にコーナー材の片側を貼り付けた後、もう片方の剥離紙を剥がし、隙間のないように十分に圧着してください。貼り付けたコーナー材の端部の浮きは、ベンリダイン瞬間ゼリー (BB-589) を塗布して接着してください。

6.巾木の貼り付け

巾木糊 (BB-560・561)、WH (BB-606・607・608) を専用ヘラまたは巾木用樹脂ヘラを使用して施工箇所に塗布し、オープンタイムを取って貼り付け、よく圧着してください。接着剤のはみ出しには注意してください。

ビニル系床材メンテナンスガイド

一般的なビニル系床材のメンテナンス

一般ビニル

床材を長く美しくご使用いただくためには適切なメンテナンスが必要です。
歩行量や汚れの段階に応じた計画的なメンテナンスにより、床材の耐用年数を延ばすことができます。



注意事項

- 床材やご使用用途・目的に応じた洗浄剤やワックス、剥離剤、パッドをお選びください。
また、洗浄剤やワックス、剥離剤は製造元が推奨する使用方法を必ずご確認の上、ご使用ください。
- 床材とワックスとの密着性は商品によって異なります。各商品の推奨ワックスについては弊社営業担当者までお問い合わせください。
- ビニル床タイルの場合は目地から水、洗浄剤、ワックス、剥離剤がタイル裏面に入り込まないようにご注意ください。接着剤を無力化させ突き上げや反りなどの不具合、二重床の場合は配線やOA機材の不具合が発生する恐れがあります。モップに染み込ませる量を調整するなどご注意ください。

WF ワックスフリー ビニル系床材のメンテナンス

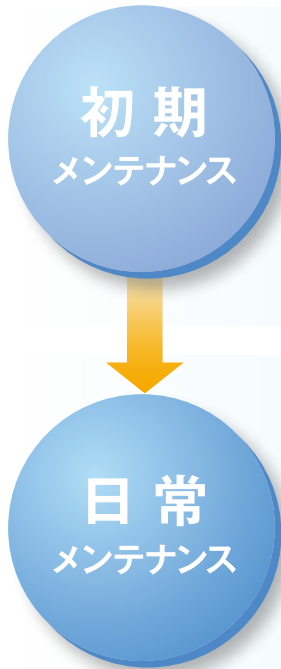
WF ワックスフリー
WAX FREE 単層タイプ

オデオンPUR グラニット
メガリット

WF ワックスフリー
WAX FREE 複層タイプ

ナーシングフロア ナーシングフロアV SKフロア メディウォーク ストロング ストロングEX
エスリューム・リアル エスリューム ミスト エスリューム ルーミー エスリューム ウィーブ エスリューム カルド
エスリューム プレーン エスリューム マーブル 抗ウイルスマーブル 消臭レストリューム OT キラリタ

ワックスを使用しないメンテナンスが可能です。
施設利用者や運営者はもちろん、環境にも負荷が少ない理想的な床材です。



使用前

- 引渡し前に付着した汚れを清掃、洗浄します。
※接着剤の完全硬化までは洗浄作業を行わないでください。

WF ワックスフリー
WAX FREE 単層タイプ

- ポリッシャー（磨き用パッド）で洗い磨きをしてください。
※洗い磨きをすることで汚れを落とすだけでなく、床材表面の平滑性が増し汚れにくくなりますので、日常メンテナンスが容易になります。

毎日 予防清掃

- 床材上の土砂が歩行で引きずられることで、床材に傷が入ります。出入口へのフロアマットの設置により土砂の持ち込みと拡散を防ぎます。マットはこまめに除塵、交換してください。

毎日 日常清掃

- ダスタークロスや掃除機でチリや埃を除去した後に、固く絞ったモップなどで水拭きしてください。
- ヒールマークなどの落ちにくい汚れは、水または洗浄剤を含ませたモップやウエスなどで拭き取ってください。
- 状況に応じ自動床洗浄機などで洗浄を行ってください。

WF ワックスフリー
WAX FREE 単層タイプ

- 傷が目立つようになってきたら、自動床洗浄機で洗い磨きをしてください。目安は歩行量の多い場所で週1回から2週間に1回程度です。

WF ワックスフリー
WAX FREE 複層タイプ

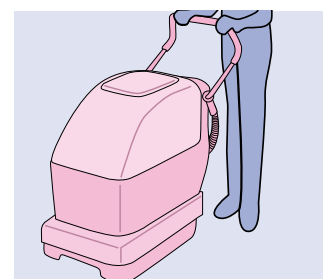
- 光沢や汚れの状況に応じてワックスメンテナンスに切り替えてください。
- ワックスメンテナンスへの切り替え後は、一般的なビニル床材と同じメンテナンスとなります。

注意事項

- 床材やご使用用途・目的に応じた洗浄剤やワックス、剥離剤、パッドをお選びください。
また、洗浄剤やワックス、剥離剤は製造元が推奨する使用方法を必ずご確認ください。
- 床材とワックスとの密着性は商品によって異なります。各商品の推奨ワックスについては弊社営業担当者までお問い合わせください。
- ビニル床タイルの場合は目地から水、洗浄剤、ワックス、剥離剤がタイル裏面に入り込まないようにご注意ください。接着剤を無力化させ突き上げや反りなどの不具合、二重床の場合は配線やOA機材の不具合が発生する恐れがあります。モップに染み込ませる量を調整するなどご注意ください。

永久 ワックスフリー機能が再生する単層シート

オデオンPUR・グラニット・メガリットは粒子のたいへん細かい素材を使用しているので、表面に凹凸が少なく汚れや薬品が入り込みにくくなっています。使用中の摩耗により表面に凹凸が生じてても、自動床洗浄機での洗浄やバフingによって表面を滑らかに整えることで、ワックスフリー機能が再生します。



初期
メンテナンス

ビニル床材の施工直後は、初期の汚れを防止することが大切です。床材施工後はキズがつかないように、必ず養生を行ってください。土足での通行を禁止し、接着剤が完全に乾燥・硬化するまで十分な養生期間を取った後に、**初期メンテナンス**を行います。

手順

一般ビニル



- 1 接着剤が完全に硬化していることを確認してください。
- 2 ダスタークロスや掃除機などで床面を掃除し、チリや埃を除去してください。
- 3 接着剤やヒールマークなどの汚れは、床材の表面を傷つけないようにスクレイパーやハンドパッドで取り除き、水または洗剤を含ませたモップやウエスなどで拭きとってください。

一般ビニル



- 4 希釈した洗剤を床面にモップで塗布し、ポリッシャーで洗浄して汚れを取り除き、スキージーなどで汚水を迅速に回収・除去してください。洗剤で取れにくい汚れはアルコールなどで除去します。その後モップなどで水拭きし、汚れを含んだ洗剤成分を完全に除去し、乾燥させてください。
※洗剤で取れにくい汚れはアルコールなどで除去します。その後モップなどで水拭きし、汚れを含んだ洗剤成分を完全に除去し、乾燥させてください。
※ビニル床タイルの場合は水や洗剤がタイル目地に入り込まないように注意してください。
- 4 施設使用前にポリッシャー（磨き用パッド）で洗い磨きをしてください。その後モップなどで水拭きし、汚れを含んだ洗剤成分を完全に除去し、乾燥させてください。
※洗い磨きは汚れを落とすだけでなく床材表面の平滑性が増し、汚れにくくしますので、日常メンテナンスが容易になります。
- 4 希釈した洗剤を床面にモップで塗布し、ポリッシャーで洗浄して汚れを取り除き、スキージーなどで汚水を迅速に回収・除去してください。洗剤で取れにくい汚れはアルコールなどで除去します。その後モップなどで水拭きし、汚れを含んだ洗剤成分を完全に除去し、乾燥させてください。
※ビニル床タイルの場合は水や洗剤がタイル目地に入り込まないように注意してください。
- 5 乾燥後、樹脂ワックスを用いて仕上げを行います。この際、ビニル床タイルの場合は洗浄作業と同様、ワックスがタイル目地から浸入しないようにモップに染み込ませる量を調整するなど注意してください。塗布回数は歩行頻度やご使用用途により異なりますが、2～3回を推奨します。
※初期メンテナンスの際、洗浄不足や乾燥不足によりワックスをはじいてしまう等、密着不良を起こすことがあります。初期の洗浄をしっかり行い、ビニル床材と密着性の良いワックスを選定することが大切です。
- 6 塗布が終わったら十分に乾燥させます。完全に乾燥するまで通行を禁止してください。

※洗浄で使用する水や洗剤の量が少ないと、床面に不具合を発生させる恐れがありますのでご注意ください。

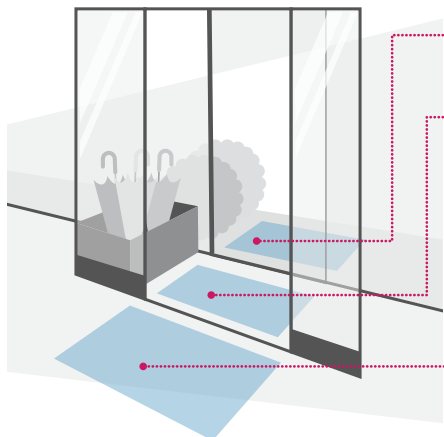
日常
メンテナンス

予防清掃

日常メンテナンスのポイントは、「**汚れる前に予防清掃をする**」ことです。施設内の汚れの80%は外から運び込まれます。靴底に付着した泥・砂などが施設内に持ち込まれ、汚れが拡散します。このため、施設まわりの日常清掃も大切です。エントランスには以下の**3段階のマット設置が汚れの持ち込み防止に効果を発揮**します。

手順

一般ビニル



- 1 まず玄関の外に雨・風耐型のマットを置き、外からの泥・砂などをふるい落とします。
- 2 次に風除室内に雨の日の水分まで吸着するマットを敷きます。
- 3 最後に施設内に汚れ・埃・水分吸着用マットを敷きます。

来訪者が施設内に入るまでに、外からの泥・砂を自然に歩いて落とすには、**約6mの除塵スペースが必要**であると言われております。なるべく広範囲にわたってフロアマットを設置することが、施設内部への汚れの持ち込みを防ぎます。

※マットが汚れて泥・砂が飽和状態のまま放置すると逆にマットの汚れが内部に入ってきますので、マットは常に清掃してください。毎日のバキュームと月1回の水洗いを必ず行います。

日常
メンテナンス

日常清掃

日常清掃では、**汚れがひどくなる前に汚れの原因を取り除く**ことが長期にわたる美観維持につながります。

手順

一般ビニル



- 1 ダスタークロスや掃除機でチリや埃を除去した後に、固く絞ったモップなどで水拭きしてください。雨天時はエントランス付近を重点的に行ってください。
- 2 落ちにくい汚れは、水または洗剤を含ませたモップやウエスなどで拭き取ってください。洗剤でも落ちない汚れは、アルコールなどで除去してください。また洗剤やアルコールを使用した場合は、必ず水拭きをしてください。
- 3 状況に応じ希釈した洗剤を床面にモップで塗布し、ポリッシャーで洗浄して汚れを取り除き、スキージーなどで汚水を迅速に回収・除去してください。その後モップなどで水拭きし、汚れを含んだ洗剤成分を完全に除去し乾燥させてください。

※広い面積での作業には自動床洗浄機を使用いただくと効率的です。
※ビニル床タイルの場合は水や洗剤がタイル目地に入り込まないように注意してください。



※傷が目立つようになってきたら、自動床洗浄機で洗い磨きをしてください。目安は歩行量の多い場所で週1回から2週間に1回程度です。洗い磨きが終わったらモップなどで水拭きし、汚れを含んだ洗剤成分を完全に除去し、乾燥させてください。
※洗い磨きは汚れを落とすだけでなく床材表面の平滑性が増し、汚れにくくします。



※光沢や汚れの状況に応じてワックスメンテナンスに切り替えてください。
※ワックスメンテナンスへの切り替え後は、一般的なビニル系床材と同じメンテナンスとなります。

※ポリッシャーや自動床洗浄機が入らないコーナー部や壁際は、水または洗剤をつけ固く絞ったモップで清掃してください。使用後は洗剤をモップなどで水拭きをし、汚れを含んだ洗剤成分を完全に除去し、乾燥させてください。

※洗浄で使用する水や洗剤の量が少ないと、床面に不具合を発生させる恐れがありますのでご注意ください。

※床材の状況に応じたパッドをお選びください。

定期
メンテナンス

日常メンテナンスでは除去できない汚れが堆積してきたら、**定期メンテナンス**を行ってください。

手順

一般ビニル

- 1 ダスタークロスや掃除機などで床面を掃除し、チリや埃を除去してください。
- 2 希釈した洗剤を床面にモップで塗布し、ポリッシャーで洗浄して汚れを取り除き、スキージーなどで汚水を迅速に回収・除去してください。更にきれいな水で床面を水拭きし乾燥させます。この際にビニル床タイルの場合は水や洗剤がタイル目地に入り込まないように注意してください。
- 3 むらなく均一にワックスを床面に塗布します。この際にビニル床タイルの場合は洗剤と同様、ワックスがタイル目地から浸入しないようにモップに染み込ませる量を調整するなど注意してください。
- 4 乾燥したら2回目の塗布を行います。摩耗や歩行量の多い部分は同様に乾燥させた後に3回目の塗布を行います。
- 5 塗布が終わったら十分に乾燥させます。完全に乾燥するまで通行を禁止してください。

特別
メンテナンス

汚れがワックスの内部に及んだり、塗膜が黄変や粉化した場合に**ワックスの剥離と再塗布作業**を行います。

手順

一般ビニル

- 1 ダスタークロスや掃除機などで床面を掃除し、チリや埃を除去してください。
- 2 ワックスの面積に応じてモップで剥離剤を均一に塗布し、剥離剤が十分浸透してからポリッシャーなどで完全に剥離させます。この際にビニル床タイルの場合は剥離剤がタイル目地から浸入しないように、モップに染み込ませる量を調整するなど注意してください。
- 3 汚水はスキージーなどで回収・除去してください。床面が乾かないうちにきれいな水で水拭きし、乾燥させます。
- 4 床面の乾燥を確認した後に、ワックスの塗布を行います。以下作業は定期メンテナンス③～⑤と同じです。

注意事項

床材やご使用用途・目的に応じた洗剤やワックス、剥離剤、パッドをお選びください。また洗剤やワックス、剥離剤は製造元が推奨する使用方法を必ずご確認ください。

床材とワックスとの密着性は商品によって異なります。各商品の推奨ワックスについては弊社営業担当者までお問い合わせください。

ビニル床タイルの場合は目地から水、洗剤、ワックス、剥離剤がタイル裏面に入り込まないようにご注意ください。接着剤を無力化させ突き上げや反りなどの不具合、二重床の場合は配線やOA機材の不具合が発生する恐れがあります。モップに染み込ませる量を調整するなどご注意ください。

ノンスキッドメンテナンスガイド

■ 日常メンテナンス

【予防清掃】

建物内の汚れの80%は外から運び込まれます。靴底に付着した泥・砂などが建物内に持ち込まれ、それが建物内の床材にキズを付け、汚れがキズに入り込みます。

- 建物内の美観を維持するためには、エントランスやエレベーター前などに防塵マットを敷き、外部から汚れが持ち込まれないように配慮してください。

【日常清掃】

日常清掃のポイントは『汚れる前に予防清掃をする』ことです。汚れがひどくなる前に汚れの原因を取り除くことで、長い期間の美観維持につながります。

- ① 防塵マットに入り込んだ砂やチリ、埃などを掃除機にて回収してください。
- ② 掃除機やほうき、ダスタークロスなどで床面を掃除し、砂やチリ、埃などを除去してください。
- ③ 指定倍率に薄めた洗浄剤を床面にモップなどで塗布し、デッキブラシで擦り、水を流します。ぬるま湯にすると洗浄剤の洗浄効果が上がります。その後モップなどで水拭きし、汚れを含んだ洗浄剤成分を完全に除去し、乾燥させてください。

■ 定期メンテナンス

日常のメンテナンスでは除去できない汚れが堆積したら、定期メンテナンスを行ってください。

- ① 掃除機やほうき、ダスタークロスなどで床面を掃除し、砂やチリ、埃などを除去してください。
- ② 指定倍率に薄めた洗浄剤を床面にモップなどで塗布し、日常清掃では取り除けない汚れをポリッシャーで洗浄して取り除き、スキージーなどで汚水を迅速に回収・除去してください。その後モップなどで水拭きし、汚れを含んだ洗浄剤成分を完全に除去し、乾燥させてください。

※屋外や半屋外で使用の際は、ワックスの塗布はお避けください。

※使用年数が経過するにつれ、水垢が蓄積されることがありますので、定期的に水垢除去の洗浄を行うことをおすすめします。

【注意事項】

床材やご使用用途・目的に応じた洗浄剤やパッドをお選びください。

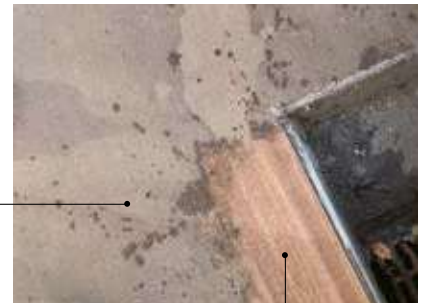
洗浄剤は製造元が推奨する使用方法を必ずご確認ください。

日常メンテナンスや定期メンテナンスを実施することで汚れの堆積を未然に防ぐことができます。

汚れが堆積すると美観を損ない、床材の防滑性にも影響しますので、メンテナンスで清掃し、

汚れを取り除いてください。

堆積した汚れ



汚れ除去後

ノンスキッド・エアコン排水目地メンテナンスガイド

1. 排水目地タイプの確認

ノンスキッド・エアコン排水目地が蓋付きタイプの場合は、蓋を取り外してください。
一般タイプの場合はこの作業は不要です。

2. 水圧によって砂や埃などを取り除く

付近の水道蛇口よりホースを繋ぎ、2口ホース受けの場合はホース受け口にホースを差し込み、水圧をかけるようにして水を流し込んで砂や埃などを押し出してください。1口ホース受けの場合は、直接排水目地を清掃してください。
※水圧が強すぎたり水量が多すぎると、ホース受けより水が溢れ出しますのでご注意ください。

3. 洗浄剤を使用する(水垢・しつこい汚れ)

水垢やしつこい汚れは洗浄剤の使用をおすすめします。

洗浄剤の一例として、ジェルタイプのパイプクリーナー(アルカリ性)をご使用ください。

成分：次亜塩素酸、水酸化ナトリウム(5%)、界面活性剤(アルキルアミンオキシド)

※洗浄剤の使用方法につきましては、洗浄剤ボトルの使用方法を参照の上でご使用ください。



エアコン排水目地 一般タイプ



エアコン排水目地 蓋付きタイプ

ルームプラス・ココフロア メンテナンスガイド

繊維状のビニルを織り込んだ独特な構造の床材です。
長く美しくお使い頂くために定期的なメンテナンスをおすすめいたします。

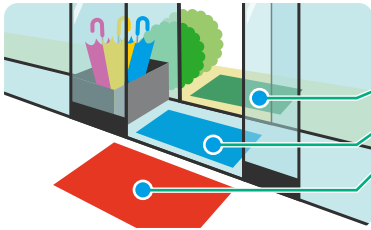
予防

メンテナンス

施設内の汚れの80%は外から運び込まれます。泥・砂・コンクリート粉・煤煙・アスファルトなどが靴底に付着し、それが施設内の床材に転移して汚れが拡散します。このため、施設の内だけでなく駐車場・連絡通路・外構回り歩道の清掃をこまめに実施する日常清掃が大切です。



3段階のマット設置が汚れの防止に効果を発揮



- ①まず玄関の外に雨・風耐用品のマットを置き、外からの泥・砂などをふり落としします。
- ②次に風除室内に雨の日の水分まで吸着するマットを敷きます。
- ③最後に施設内に汚れ・埃・水分吸着用マットを敷きます。

外から施設内まで来訪者が自然に歩いて泥・砂を落とすには、約6mの除塵スペースが必要であると言われています。なるべく広範囲にわたってマットを設置することが施設内部の床材の汚れを防ぎます。

※マットが汚れて泥・砂が飽和状態のまま放置すると逆にマットの汚れが内部に入りますので、マットは常に清掃しておきます。毎日のバキュームと月1回の水洗いをおすすめします。
※大きなマットは重量があり、めくれにくいですが、バリアフリーを推進するためには初期床工事仕上げの時に、マットの厚み分床の仕上高を低くする必要があります。

初期

メンテナンス(施工完了後)

土足での通行を禁止し、床面を保護して接着剤が完全に乾燥・硬化するまで十分な養生期間を取り、初回のメンテナンスを行います。



初期メンテナンス手順

- ①乾式ダスターモップや掃除機を使用して埃やゴミを除去し、床面をきれいに掃除してください。
- ②床面に付着したヒールマークや接着剤などの汚れは、床材の表面を傷つけないようにナイロンブラシやハンドパッドで取り除き、水または洗剤を含ませたウエスなどで拭き取ってください。洗剤で取れにくい汚れはアルコールなどで除去し、その後モップなどで水拭きします。汚れを含んだ洗剤成分を完全に除去して乾燥させてください(洗剤成分が残っていると汚れが付着しやすくなります)。
- ③温水(40℃程度)を使用し、自動床洗浄機で洗浄してください。柔らかいパッド、またはブラシを低圧で使用し、洗剤を使用する場合はアルカリ洗剤を希釈してください。(ココフロアは中性洗剤を使用してください。)凹凸に入り込んだ汚水は湿式掃除機(バキューム)で完全に回収し、水拭きして乾燥させてください。
- ④洗浄後、必要に応じてワックスを塗布します。(ココフロアはワックスを使用できません)事前に床面が乾燥しているかを確認してから作業してください。ワックスが乾くまでは通行を禁止してください。

※清掃機器は床材の目の方向に沿ってご使用ください。 ※自動床洗浄機が入らないコーナー部や壁際はモップやハンドパッドで清掃してください。
※自動床洗浄機の水、洗剤の量が少ないと洗浄ムラや床材の不具合が発生する恐れがありますのでご注意ください。 ※洗剤の希釈は製造元が推奨する希釈率をご確認ください。

日常

メンテナンス

日常メンテナンスのポイントは、「汚れる前に予防清掃をする」ことです。
床面にこびり付いた汚れを取り除くには大変な時間と労力を要し、床面もきれいになりません。
汚れがひどくなる前に汚れの原因を取り除くことが長期的にわたる美観維持につながります。



日常メンテナンス手順

- ①乾式ダスターモップや掃除機で埃やゴミを取り除いてください。雨の日はエントランス付近を重点的に、固く絞ったモップでぬれている部分を拭き取ります。
- ②ヒールマークなどの落ちにくい汚れは、水または洗剤を使用し、ナイロンブラシやウエスなどで取り除いてください。洗剤でも落ちない汚れは、アルコールなどで除去してください。また洗剤やアルコールを使用した場合は、必ず水拭きをしてください。
- ③歩行頻度や汚れの状況に応じて、温水(40℃程度)または洗剤を使用し、自動床洗浄機で洗浄してください。柔らかいパッド、またはブラシを低圧で使用し、洗剤を使用する場合はアルカリ洗剤を希釈してください。(ココフロアは中性洗剤を使用してください。)凹凸に入り込んだ汚水は湿式掃除機(バキューム)で完全に回収し、水拭きして乾燥させてください。
- ④洗浄後、必要に応じてワックスを塗布します。(ココフロアはワックスを使用できません)事前に床面が乾燥しているかを確認してから作業してください。ワックスが乾くまでは通行を禁止してください。歩行頻度や汚れの状況に応じて、1ヶ月に1回程度の表面洗浄と、6ヶ月に1回程度のワックス塗布を定期的に行ってください。汚れが取りきれなくなってきたらワックスを剥離し、十分に洗浄のうえワックスを再塗布してください。

※自動床洗浄機が入らないコーナー部や壁際はモップやハンドパッドで清掃してください。 ※ドライバフingやバニッシングを行うと、床面の凹凸部が局部的に削られて不具合が生ずる場合があります。
※洗剤の希釈は製造元が推奨する希釈率をご確認ください。

カーペットタイル メンテナンスガイド

長期間美しく維持管理していくためのメンテナンス方法をご紹介します。

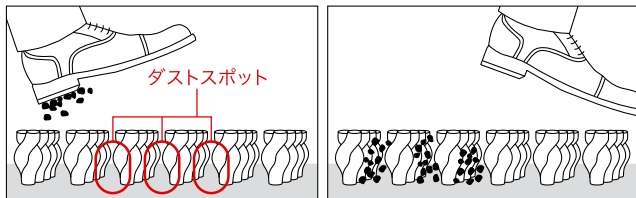
■予防メンテナンス

出入りにマットの設置(マットメンテナンス)

- 商業(来客)施設の場合、施設内の汚れの80%は外から運び込まれます。
- 泥・砂・コンクリート粉・煤煙・アスファルトなどがお客様の靴底に付着し施設内のカーペットタイルでぬぐい去られます。外からの汚れを食い止めるのが、玄関マットです。
- まずは、玄関の外に、雨・風耐用型のマットを置きます。次に、風除室内に、雨の日の水分まで吸着するタイプのマットもしくはダストコントロールカーペットタイルを敷きつめます。なるべく広範囲に渡るマット類の使用が、施設内部の汚れを防ぎます。この玄関部のマット類が汚れて、泥・砂が飽和状態のまま放置すると効果は半減し、逆にマット類の汚れが内部に入ってきます。マット類が泥・砂を常に吸着しやすいように、常に、マット部も清掃しておきます。

■カーペットタイルの汚れの原因

カーペットタイルの汚れの80%は外部から持ち込まれます。お客様が自然に歩いて泥・砂を落とすには、約6mの除塵スペースが必要であるとされています。



※ダストスポット:パイルの間にある汚れを蓄積する場所

1.日常メンテナンス

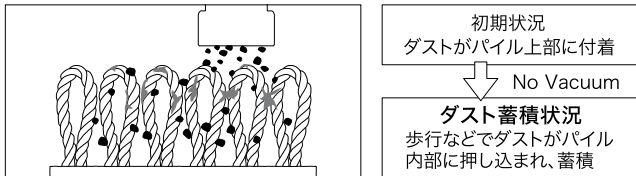
衛生維持を目的とします。(目安:毎日)

【表-A】

日常メンテナンス 汚れの分類例		
毎日のバキュームでドライソイルは除去します。		
1	砂、粘土	30~40%
2	酸化物、炭酸化合物	6~24%
3	炭素、カーボン	0~3%
4	髪の毛、動物の毛	10~12%
5	繊維、植物物質(綿ほこり)	10~12%

※【表A・B・C】の1~5が乾いた粒子で通常80%~90%を占めます。その他6・7・8の割合は少ないものの、著しく美観を損ねる原因となり、より高度なクリーニング技法が必要となります。

日常メンテナンスの重要性



掃除機バキューム

汚れの80%は乾いた粒子の汚れです。毎日のアップライトバキュームで除去。(出入り口付近は縦、横と2回かけてください)



シミ取り(早期発見→対処が重要です)

シミを見つけたら、カーペット専用洗剤や中性洗剤を入れたぬるま湯等を散布し乾いたウェスで吸着させてください。

2.中間メンテナンス

衛生環境の改善を目的とします。(目安:3ヶ月~半年/回)

【表-B】

中間メンテナンス 汚れの分類例		
少量の洗剤で油汚れやドライソイルを除去します。		
1	砂、粘土	30~40%
2	酸化物、炭酸化合物	6~24%
3	炭素、カーボン	0~3%
4	髪の毛、動物の毛	10~12%
5	繊維、植物物質(綿ほこり)	10~12%
6	湿気	2~4%
7	ガム、樹脂	6~10%

※【表A・B・C】の1~5が乾いた粒子で通常80%~90%を占めます。その他6・7・8の割合は少ないものの、著しく美観を損ねる原因となり、より高度なクリーニング技法が必要となります。

クリスタルクリーニングの実施例



バキューム 特殊洗剤散布 ロータリーブラシ洗浄 汚れを吸着した洗剤を回収

- 中間メンテナンス工法/日常メンテナンスでは落ちない汚れを少量の特殊洗剤やスチームで除去します。

- ・パウダークリーニング
- ・ボンネットクリーニング
- ・ドライフォームクリーニング

※状況によりメンテナンスの頻度は異なりますので、必ず専門業者へご確認ください。

3.定期メンテナンス

蓄積してしまった汚れの除去を目的とします。(目安:半年~1年/回)

【表-C】

定期メンテナンス 汚れの分類例		
カーペット専用洗剤と水または温水で除去します。		
1	砂、粘土	30~40%
2	酸化物、炭酸化合物	6~24%
3	炭素、カーボン	0~3%
4	髪の毛、動物の毛	10~12%
5	繊維、植物物質(綿ほこり)	10~12%
6	湿気	2~4%
7	ガム、樹脂	6~10%
8	タール、オイル、油脂	3~8%
9	その他、未確定物質	1~3%

※【表A・B・C】の1~5が乾いた粒子で通常80%~90%を占めます。その他6・7・8の割合は少ないものの、著しく美観を損ねる原因となり、より高度なクリーニング技法が必要となります。

- 定期メンテナンス工法/カーペット専用洗剤で洗浄後にリンスして復元、蘇らせる工法が特徴。

- ・ロータリークリーニング
- ・スチームクリーニング
- ・エクストラクション

※衛生消毒薬品は必ず事前に目立たない箇所では影響の無いことを確認してから使用してください。状況によりメンテナンスの頻度は異なりますので、必ず専門業者へご確認ください。



洗剤を出しながら洗浄 水または温水でリンス→乾燥

※詳しいメンテナンス方法は、カーペットタイルメンテナンスの知識と経験を持つライセンスに合格したクリーニングテクニシャンにご相談ください。

【日本カーペットクリーナーズアカデミー JCCA】
www.japan-carpet.com

フロテックス メンテナンスガイド

高密度にナイロンパイルを植毛したフロテックスは、耐久性・防水性・速乾性に優れる商品です。日常メンテナンスと定期メンテナンスを実施することで長期にわたって美観を維持することが可能です。

日常
メンテナンス

予防清掃

- 施設内の汚れの80%は外から運び込まれます。靴底に付着した泥・砂などが施設内に持ち込まれ、汚れが拡散します。このため、施設まわりの日常清掃も大切です。エントランスには以下の3段階のマット設置が汚れの持ち込み防止に効果を発揮します。
 - ①まずは、玄関の外に、雨・風耐用型のマットを置きます。
 - ②次に風除室内に雨の日の水分まで吸着するマットもしくはダストコントロールカーペットタイルを敷きつめます。
 - ③最後に施設内に汚れ・埃・水分吸着用マットを敷きます。
- ※マットが汚れて泥・砂が飽和状態のまま放置すると逆にマットの汚れが内部に入ってきますので、マットは常に清掃してください。毎日のバキューミングと月1回の水洗いをおすすめします。

日常清掃

- 日常清掃のポイントは、「汚れる前に予防清掃をする」ことです。汚れがひどくなる前に汚れの原因を取り除くことが長期にわたる美観維持につながります。
 - ①アップライトバキュームで埃やゴミを取り除いてください。
 - ②汚れや染みはきれいな水もしくは温水(40℃)を使用して取り除いてください。水や温水で落ちない場合は、希釈した中性洗剤を使用してください。
 - ③水分や洗剤を完全に除去し乾燥させてください。



A.まず最初にスクレイパーなどで出来るだけ汚れを掻き集めて取り除いてください。



B.水(必要に応じて少量の洗剤)を用いて、ブラシなどで汚れた部分を十分に擦り、汚水を雑巾などで吸い取ってください。



C.最後に綺麗な水(またはお湯)を用いてリンスしながら、スクレイパーなどで汚水を集めて雑巾で吸い取ってください。必要に応じて数回繰り返してください。

定期
メンテナンス

- 日常メンテナンスで除去できない汚れが堆積してきたら、定期メンテナンスを行ってください。
 - ①アップライトバキュームで埃やゴミを取り除いてください。
 - ②希釈した洗剤を噴霧器等で塗布し、ポリッシャーで洗浄して汚れを取り除いてください。
 - ③残った汚水、洗剤液はウエットバキュームやエクストラクターで回収して乾燥させてください。

※P.545のカーペットタイルメンテナンスガイドも合わせてご参照ください。

キャスターによる床材への影響について

近年、病院及び介護施設などで使用されている医療用ベッドのキャスターが床材と接触する部分に、膨れや破損が発生する事例が報告されています。



独自試験による検証の結果、キャスターにロックを掛けた状態での人の乗り降りによって繰り返し生じる寸動、あるいはベッドの移動・回転などによるねじれの力の発生など、さまざまな要因が複合的に作用したものと考えられます。

この事象につきましては今後も多角的な検証・改善が必要ですが、当面、同様の事象の発生を軽減するために有効と思われる対策を以下にご紹介します。

- 商品選定においては使用環境を考慮し、できる限り耐動荷重性能の高い床材をご選定ください。
- 施工の際は、下地が平滑で十分に乾燥した状態であり、十分な強度があることを確認してください。必要に応じて、荷重用EPプライマー（BB-600）を塗布してください。一般的な下地水分レベルと施工方法の目安の組み合わせは下表の通りですが、特に日常的な重量物の移動・搬送などによる負荷が想定される場所に関しては、下地の水分レベルがグレードⅠの場合でも、**エポキシ・ウレタン樹脂系接着剤**を適切な塗布量で使用し、十分に圧着してください（より接着強度に優れるEP-300をおすすめします）。

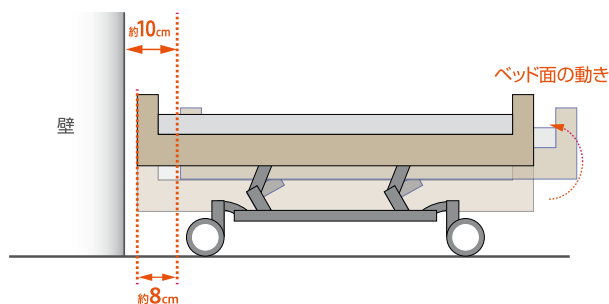
水分計*			水分計以外での確認方法		施工方法の目安
グレード	選択 D.MODE	従来の水分指標	ポリエチレンフィルム	パーナー	
Ⅰ	440未満	8%以下	24時間後変化なし	下地表面に変化なし	一般工法
Ⅱa	440以上620未満	8%～10%	24時間後黒ずみ（輪郭不明瞭）	下地表面が黒ずむ	耐湿工法
Ⅱb	620以上	10%以上	24時間後に変色結露が見られる	下地表面に水滴が浮く	施工不可

*使用水分計：株式会社ケット科学研究所 高周波静電容量式水分計「HI-520-2」D.MODE選択による

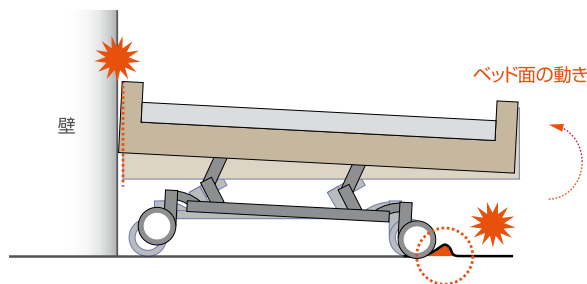
- ベッドの取り扱いには、ベッドメーカーの定める取り扱い説明書の内容に従って正しくご使用ください。

- 例
- ・壁面から適切な距離（目安10cm）を開けて設置してください。
 - ・キャスターをロックしたままベッドをずらしたり動かしたりしないでください。

○ 壁から離れる方向に最大で約8cm
押し出される動きに対応できるスペース。



✗ ベッドの高さが中間位置で設置され壁との距離がない場合、昇降時に押し出される動きによって、ロックされたキャスター部分と床面に負荷がかかる。



- ベッドのキャスターが接地する部分に当て板を用いることで床材にかかる負担を軽減できます。

ただし、これらの対策も床材の膨れ、破損を確実に防止できるものではなく、あくまでも問題の発生を軽減する方法のひとつとしてご認識ください。

床材に求められる「耐動荷重性」と「衝撃吸収性」の両立は、現時点では非常に困難なものと言わざるを得ませんが、弊社では今後も引き続きこの問題解決に向けた検証や商品開発に取り組んでまいります。

床材を安心してご使用いただくために

床材には素材ごとの性質があります。以下に素材別の一例を紹介します。事前にご確認いただくことで事故防止につながります。

■ビニル系床材のゴム汚染

ゴム製品に含まれる油や老化防止剤などがビニル系床材表面に移行し、茶色や黄色に変色する現象です。ゴム製品の油や老化防止剤とビニル系床材に含まれる可塑剤が反応して発生します(荷重の度合いによっても異なります)。

ビニル系床材とゴム製品の間に保護シート(アルミ製・ポリエステル製)を使用し、直接接触させないことで変色を防ぐことができます。

■下地からの汚染

ワックス・グリス・油脂類・塗料などの「汚れ」や、ペン・ラッカー・チョークなどによる「マーキング」が下地に残留していることにより、接着不良や汚染・変色が発生する可能性があります。

また、配管用接着剤が下地に残留していることにより変色が発生する可能性もあります。

これらは、施工前に下地から完全に除去いただくことで、上記不具合を防ぐことができます。

■フロアタイルの突き上げ

フロアタイルには温度変化で伸縮する特性があります。接着剤が十分な接着力を発揮する前に、急激な温度変化(低温から高温)によってフロアタイルが伸び、突き上げる場合があります。

低温時(10℃以下)の対策として、室内をジェットヒーターなどで暖める、また現場の室温を一定にしてフロアタイルを室温になじませ直射日光を遮断するなど、施工中や施工後の養生期間中の現場の室温を一定に保つようしてください。



■カーペットタイルのジョイント

主に柄物カーペットタイルは、ロール状の原反をランダムに50cm角等の規格サイズに裁断するため、1枚1枚の色柄に変化と濃淡の差があり、その割合が異なります。

施工後、仕上がりに違和感がある場合は、部分的に入れ替えを行なっていただき、全体のバランスをとってください。



■繊維床材のくも現象

カットパイルの商品は施工後に波状・雲状・島状のムラに見える部分が発生することがあります。これは「くも現象」「シェーディング」と呼ばれ、その部分のパイルが他の部分と異なった方向に倒れることにより、光線等の影響を受けムラに見える現象です。商品の欠陥ではなく、パイル形状の特性による外観上のものであり、品質に影響を及ぼすものではありません。

対策方法としては、ループパイル及びカット&ループパイル商品、またはカットパイルであれば強燃糸の商品を選定いただくことで目立ちにくくなります。



Sフロア・Hフロア・ノンスキッド取扱上のご注意

選択上のご注意

- 物性試験データは、商品の耐久性を示す目安です。選択の際には商品の耐久性以上の用途のご使用はお避けください。
- 建築基準法・消防法によって、使用方法ならびに使用場所に制限があります。各法令法規をご確認ください。
- 暗所、アルカリ性雰囲気、高温多湿環境下において、床材が変色する可能性があります。このような場所へ床材を施工する際には、変色が発生しても目立たない濃色系の床材を選択することをおすすめします。
- 病院・福祉施設など抗菌性を求められる場所では、抗菌マークのある商品をお選びください。人体に影響が少ない抗菌剤を使用していますが、乳幼児が誤って経口する可能性のある場所でのご使用はお避けください。
- 淡色系・無地調の床材ほど濃色系に比べて汚れが目立ちやすくなります。また、フラットな表面形状に比べてエンボスが深いほど汚れが残りますのでお含みおきください。

運搬ならびに保管上のご注意

- 重量物ですので取り扱いには十分ご注意ください。落下や乱暴な取り扱いは、床材の破損だけでなく、傷や器物破損などを招く場合があります。
- 縦置きの場合はロープなどで固定し、転倒防止を図ってください。横置き保管の場合は、依頼をお避けください。
- ご注文の際は、長さ9m巻(約45kg)を超える場合、配送が困難になりますのでご相談ください。

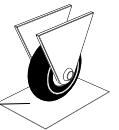
施工上のご注意

- 梱包紙に記載されている品名・品番・ロット・数量をご確認のうえ、施工を開始してください。同一床面上は、同ロットで仕上げてください。
- 幅継ぎをする際は、耳部どうしでジョイントしてください。
- 目地入りの商品を手ジョイントして施工する際、商品の特性上目地が合わない場合がありますので、特に広い面積で施工する場合には割り付けにご注意ください。
- 各商品別に、施工上の注意・接着剤・ワックスなどが異なりますので、商品掲載ページの施工上の注意をご参照ください。また施工する場所の環境や下地の状態により、接着剤や施工方法が異なる場合がありますのでご注意ください。
- 下地は平滑かつ清潔で乾燥して、良好な圧縮及び引張り強度があり、接着力を低下させるような構造的欠陥がないようにしてください。多孔質でもよい下地や粉っぽい下地はプライマー処理を行ってください。
- 不陸は適切なコンパウンドで補修してください。
- 鋳物ベースの下地(モルタル・コンクリートなど)で、新規あるいは土間床の場合は下地水分を測定してください。コンパウンドや接着剤は床仕上げ材と同様に適切な皮膜もしくはその他の方法で高い残留水分や下地の湿気から遮断しておく必要があります。
- 下地にワックス・グリス・油脂類・塗料などの汚れ、ペン・ラッカーによるマーキングなどが残っていると、接着不良や汚染、変色を発生させる可能性がありますので、完全に除去してください。
- 床材は現場の室温によくなじませてから施工してください。室温と床材に温度差があると、施工直後だけでなく、後日、目地隙・突き上げなどをおこすことがあります。
- 接着の際は、床材の指定接着剤を使用し、接着剤指定のくし目ごてで均一に塗布し十分に圧着してください。
- 重量物の移動が想定される場合、下地水分グレードがI(一般工法レベル)の場合でもウレタン・エポキシ樹脂系接着剤をご使用ください。
- 有機溶剤を含んだ接着剤を使用する場合は、火気に注意し室内の換気が心がけ、有機溶剤作業主任者立ち会いのもとで行ってください。有機溶剤は引火しやすく、また多量に吸入すると人体に影響を及ぼす可能性があります。
- 施工中は、他業種による汚損・事故の発生を防ぐために、床工事関係者以外の立ち入りを禁止してください。
- 施工後、接着剤が十分硬化するまでは、直射日光や冷暖房などによる急激な温度変化をお避けください。特に冬季は接着剤の硬化が遅いので十分な養生期間をとってください。
- 施工直後に養生シートを使用した場合、床材と養生シートの間に結露水や水蒸気・溶剤蒸気などがこもり、床材の反り・突き上げなどが生じる可能性があります。養生シートは、接着剤が十分硬化してから使用してください。
- 養生シートをとめる際、粘着テープは直接床材に貼り付けしないでください。床材を汚染する原因となります。
- これらの施工条件が満たされない場合は、目地隙や突き上げ、膨れなどを招く可能性があり、美観を損ねるだけでなく、転倒事故などの原因となります。
- 施工後、残材などを廃棄する場合は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に処分を委託してください。包装紙・紙管などを焼却する場合は、都道府県条例に基づき処分してください。ビニル床材を燃やすと有害ガスが発生する場合があります。
- 防水層の上に敷設される押さえコンクリートは水分が抜けにくく、多量の水分を含んでいる場合があります。この状態で床材を施工すると、押さえコンクリートを床材で蓋をする状態となるため、逃げ場を失った押さえコンクリートに含まれる水分が床材を持ち上げて膨れが生じますので施工をおすすめできません。

維持管理ならびに使用上のご注意

- 床材は熱によって変退色・溶融する可能性があります。たばこや、車輪の摩擦熱、火花の飛び散りなどはお避けください。
- 温風ヒーター吹き出し口にはマットを設置するなどして、温風が直接床材表面に当たることをお避けください。
- 重量物や車輪のしごきによって、床材の表面を傷つけたり、膨れを発生させる可能性があります。引きずったり、にじらないようご注意ください。
- 長期間使用しない部屋では換気を心がけてください。結露を招き、カビや異臭の発生、床材の割れが・反り・膨れ・突き上げの可能性があります。
- 素材固有の臭いがあります。換気を心がけてください。
- 床材の汚れのほとんどは水拭きでとれます。ほうきや掃除機でゴミを取り除いた後に、固く絞ったモップなどで水拭きしてください。
- しつこい汚れはクリーナーで洗浄し、固く絞ったモップなどで水拭きしてください。
- 各床材に応じたメンテナンスを行うことにより、汚れもつきにくくなります。ワックスにより床材との相性が異なりますので、選定の際にはご注意ください。
- 水濡れや砂が飛散した状態では滑りやすくなり、転倒事故を招く可能性があります。泥よけマットの設置などで雨水や土砂の持ち込みを防ぎ、持ち込まれた際には即座に除去するようにしてください。
- 長時間直射日光が当たる場所では、変退色する可能性がありますので、カーテン・ブラインドなどで日よけをしてください。
- 家具やハイヒールなどの局部荷重により凹み跡が残る場合があります。
- イタリヤ・ソール、化学薬品などをこぼしたときは、すぐに濡れたぞうきんで拭き取ってください。
- 化学薬品や強い作用をもつ洗剤・漂白剤などにより、変退色や変質を招く場合があります。
- 水・砂・紫外線・重量物・汚染物質・化学薬品などの影響で、床材自体の変質・変退色や、施工後の膨れ・割れ・目地隙などがおこる場合があります。維持管理には十分ご注意ください。
- ゴム素材に含まれる老化防止剤、家具の塗料や防汚剤・防虫剤・防蟻剤によって、床材が汚染され変退色する可能性があります。使用を避けるか、床材に直接ふれないようにしてください。
- ノンスキッド・エアコン排水目地(蓋付きタイプ)は排水目地を清掃しやすいよう蓋の着脱が可能ですが、使用環境により素材の特性上、蓋の伸縮が発生する可能性があります。
- クッションフロアはワックスとの密着性が劣りますので、ワックスがけはおすすめしません。クッションフロアは弾力性が高く歩行などにより変形しやすいためワックス皮膜が追従しきれず、ワックス皮膜の割れや剥がれが生じる場合があります。
- クッションフロアはキャスト走行や歩行頻度の高い場所では膨れが発生する可能性がありますので、ご使用をお控えください。

タイヤなどのゴム素材が床材と接するとき保護シート(アルミ製・ポリエステル製)



Sフロア・Hフロア・ノンスキッドマークの説明

- | | | | |
|--|--|--|--|
| | ワックスフリーコーティングにより、ワックスをかけることなく、美観を維持できます。 | | 抗菌試験JIS Z 2801の結果に基づき、抗菌活性値2.0以上をクリアした商品です。 |
| | 緻密な単層構造により、汚れや薬品が入り込みにくく、高い防汚性を実現しています。表面に細かな傷が生じても、パフリングにより防汚機能が再生します。 | | JIS Z 2911 かび抵抗性試験にて、試験片に胞子懸濁液を接種し、4週間放置した結果、肉眼および顕微鏡下での発育が認められなかった床材です。 |
| | JIS A 1454 耐汚染性試験にて試験片に有効塩素濃度6%次亜塩素酸ナトリウムを滴下し、24時間放置した結果、表面に変化が見られなかった商品です。 | | 日本産業規格「JIS A 5705ビニル系床材」に定められた性能を満たしています。 |
| | JIS A 1454 耐汚染性試験にて試験片に試薬を滴下し、24時間放置した結果、表面の変化が少ない商品です。 | | 再生ビニル樹脂系材料の合計重量が、製品の総重量比で15%以上使用されたグリーン購入法適用商品です。 |
| | JIS A 1454 耐キャスト性試験A法にて、床材に膨れや破れが発生しにくい床材です。耐動荷重性が求められる場合は、必ず適切な接着剤の選定が必要です。 | | 表面に細かいエンボスを施すことで素足で歩行した時でもベタつきが少なく、足ざわりの良い、さらさらとした仕上げとなっています。 |
| | JIS A 1454 電気的特性試験にて、一般ビニル床シートと比較して表面抵抗値(Ω)、体積抵抗値(Ω)とも数値が低く、帯電防止性能が高い床材です。 | | フラットなのにすべりにくい。車椅子やベビーカーの移動もスムーズです。 |
| | JIS A 1454 滑り性試験にて、乾燥状態・水+ダストのそれぞれの条件下で優れた防滑性が確認された床材です。 | | 汚れが取りやすい。すべりにくさと汚れの取りやすさを両立しました。 |
| | 厚みを持つ発泡構造により、転倒時の衝撃を緩和し安全性を高めています。JIS A 6519 に準拠した床の硬さ試験でも他の床材と比較して衝撃吸収性が優れています。 | | 開放廊下やバルコニーなど屋外で使用可能な床材です。 |
| | 床材表面に加工している消臭剤が、ペット臭やトイレ臭、生ゴミ臭など気になるニオイの成分と化学吸着し、消臭性能が長持ちします。 | | 表面強度を持たせた構造で、土足使用にも耐えられます。日本農林規格耐摩擦A試験でも一般的なフローリングや塩ビタイルなどよりも摩擦の少ない床材です。 |
| | ISO 21702 抗ウイルス性試験にて、試験片にウイルス懸濁液を滴下し、99%以上の抗ウイルス効果が確認された商品です。 | | (一社)抗菌製品技術協議会の定める抗ウイルス性能および安全性基準などに適合しています。 |
| | | | 床材ノンスキッドと階段用ノンスキッド・ステップで同柄同色もしくは類似色があります。 |

フロアタイル取扱上のご注意

選択上のご注意

- フロアタイルの耐久性は歩行量、使用環境によって異なります。ご選定の際は製品の耐久性以上の用途での使用は避けください。
- 建築基準法・消防法によって、使用方法ならびに使用場所に制限があります。各法令法規をご確認ください。
- 下地からの湿気の上昇や、摩擦熱、火花の飛び散りが予想される場所ではご使用をお避けください。
- 淡色系・無地調の床材ほど濃色系に比べて汚れが目立ちやすくなります。またエンボスが深い、あるいは細かいほど汚れが残りますのでお好みおきください。
- 濃色系やフラットな表面形状はキズが目立ちやすくなりますのでお好みおきください。
- 家具の下などの暗所、密閉されるような環境、高温多湿、酸性ガス (NOx、SOx) などの条件が揃うと床材が変色する場合があります。これらの条件が揃わないようご注意ください。やむを得ずそのような箇所に施工する際は暗色系の床材をご選定ください。

運搬ならびに保管上のご注意

- 重量物ですので取り扱いには十分ご注意ください。落下や乱暴な取扱いはフロアタイルの破損だけでなく、傷害や器物破損などを招く場合があります。
- フロアタイルは梱包を解かず平坦な場所に保管してください。積載は高さ70cmを限度とします。積み過ぎ、長時間にわたる直射日光や高温状態、雨水などによる水濡れは、変形・変退色・変質の原因となります。

施工上のご注意

- 梱包ケースに記載されている品名・品番・ロット・数量をご確認のうえ、施工を開始してください。同一床面上は同ロットで仕上げてください。
- フロアタイルや接着剤は施工時の温度に大変影響を受けやすく、低温時は特に接着剤の接着力が弱くなり完全接着までには時間がかかります。理想的な施工温度は15～25℃ですが、それよりも室温が低い場合はジェットヒーターなどの暖房機で現場を暖めるなどして、施工の前12～24時間はこのような室温を保ち、フロアタイルも箱から出して現場と同様の室温に保管し、なじませる必要があります。室温と床材に温度差があると施工直後だけでなく、後日、目地隙、突き上げなどをおこすことがあります。
- タイル裏面の矢印で流れ方向をご確認ください。方向が変わると色差のように見えることがあります。
- 各商品別に施工上のご注意・接着剤等が異なりますので、商品掲載ページの施工上のご注意をご参照ください。また施工する場所の環境や下地の状態により、接着剤や施工方法が異なる場合があります。
- 下地は平滑かつ清潔で乾燥して、十分な強度があり、接着力を低下させるような構造の欠陥がないようにしてください。多孔質でもよい下地や粉っぽい下地はプライマー処理を行ってください。
- 不陸は適切なコンパウンドで補修してください。
- 木質系下地の目地部、凹み、釘頭部は適切なコンパウンドで補修してください。床材表面への継ぎ目段差や凹み跡の現出、釘に使用された防錆剤等により床材を変色させる恐れがあります。
- 木質下地に含まれる防虫剤や防腐剤により床材を変色させる場合があります。
- 鉱物ベースの下地 (モルタル・コンクリートなど) で、新規あるいは土間床の場合は下地水分を測定してください。コンパウンドや接着剤は床仕上げ材と同様に適切な皮膜、もしくはその他の方法で高い残留水分や下地の湿気から遮断しておく必要があります。
- クッション性の大きな下地にフロアタイルを施工すると沈み込みによる段差や端部のめくれ、層間剥離などの不具合が生じる場合があります。
- 下地にワックス、グリス、油脂類、塗料などの汚れ、ペン、ラッカーによるマーキングなどが残っていると、接着不良や汚染、変色を発生させる可能性がありますので、完全に除去してください。
- 接着の前にフロアタイルを一旦仮置きして、色柄の偏りがないかご確認のうえ施工してください。
- 接着の際は、床材の指定接着剤をご使用のうえ、接着剤指定のくし目目で均一に塗布し十分に圧着してください。
- 重量物の移動が想定される場合、下地水分グレードがI (一般工法レベル) の場合でも、耐湿工法用接着剤をご使用ください。
- 有機溶剤を含んだ接着剤をご使用の際は火災にご注意のうえ、室内の換気が心がけ、有機溶剤作業主任者立ち会いのもとで行ってください。有機溶剤は引火しやすく、また多量に吸入すると人体に影響を及ぼす可能性があります。
- 床暖房下地の場合は、下地づくりから含めた施工上のご注意と接着剤のご選定が必要となります。
- コンパネ、二重床、塗床、タイルの重ね貼りなどの非吸水性下地の場合は、耐湿工法用接着剤をご使用のうえ、接着剤の乾燥を促進させる必要があります。



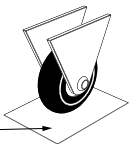
床暖房下地に関する
施工要領書はこちら

- タイル同士に若干の寸法差が生じる場合があります。目地ずれが大きくなりすぎないように調整しながら施工してください。
- 施工中は他業種による汚損・事故の発生を防ぐために、床工事関係者以外の立ち入りを禁止してください。
- 施工後、接着剤が十分硬化するまでは通行を制限し、直射日光や冷暖房などによる急激な温度変化や、重量物やキャスター椅子などによるしごきなどは避けてください。特に冬季は接着剤の硬化が遅いので十分な養生期間をとってください。
- 施工直後に養生シートをご使用になった場合、フロアタイルと養生シートの間に結露水や水蒸気・溶剤蒸気などがこもり、フロアタイルの反り・突き上げなどが生じる可能性があります。養生シートは、通気性のあるものを接着剤が十分硬化してからご使用ください。
- 養生シートをとめる際、粘着テープは直接床材に貼り付けしないでください。床材を汚染する原因となります。
- これらの施工条件が満たされない場合は、目地隙や突き上げ、膨れなどを招く可能性があります。これらは美観を損ねるだけでなく、転倒事故などの原因となります。
- 施工後、残材などを廃棄する場合は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に処分を委託してください。梱包ケースなどを焼却する場合は、都道府県条例に基づき処分してください。ビニル床材を燃やすと有害ガスが発生する場合があります。

維持管理ならびに使用上のご注意

- 水濡れや砂が飛散した状態では滑りやすくなり、転倒事故を招く可能性があります。泥よけマットの設置などで雨水や土砂の持ち込みを防ぎ、持ち込まれた際には即座に除去するようにしてください。フロアタイルの摩耗、キズつきを防ぎ美観を保持するだけでなく、寿命を延ばす効果があります。
- フロアタイルは熱によって変退色・溶融する可能性があります。たばこや車輪の摩擦熱、火花の飛び散りなどは避けてください。
- 温風ヒーター吹き出し口にはマットを設置するなどして、温風が直接フロアタイル表面に当たることを避けてください。ホットカーペットなど暖房器具の熱が長時間にわたる加わると、変質や変色、突き上げや膨れの原因となります。
- 重量物や車輪のしごきによって、フロアタイルの表面をキズつけたり膨れを発生させる可能性があります。引きずったり、にじらないようにしてください。
- 長期間使用しない部屋では換気を心がけてください。結露を招き、カビや異臭の発生、フロアタイルの剥がれ・反り・膨れ・突き上げの可能性があります。
- 素材固有のニオイがあります。換気を心がけてください。
- 接着剤が完全に硬化してから水のご使用をできるだけ抑えながら表面の汚れを洗浄し、乾燥した後に樹脂ワックスを塗布してください。洗浄が不足するとワックスとの密着性が悪くなる場合があります。
- 床材の汚れの多くは水拭きでとれます。ほうきや掃除機でゴミを取り除いた後に、固く絞ったモップなどで水拭きしてください。
- トイレでのご使用の際は汚れを放置すると尿素焼け等を起こす場合がありますので、こまめに掃除を行ってください。
- しつこい汚れは、クリーナーで除去し、固く絞ったモップなどで水拭きしてください。
- 竣工後は使用環境に応じた日常の清掃・洗浄と定期的なワックスがけを行ってください。
- ドラメンテナンスを行う際はメンテナンス業者にお問い合わせください。
- 長時間直射日光があたる場所では変退色や突き上げを招く可能性がありますので、カーテン・ブラインドなどで日よけをしてください。
- 家具やハイヒール等の局部荷重により凹み跡が残る場合があります。
- インクやソース、化学薬品などをこぼしたときは、すぐに濡れたぞうきんで拭き取ってください。
- 化学薬品や強い作用をもつ洗剤、漂白剤などにより、変退色や変質を招く場合があります。
- 水・砂・紫外線・重量物・汚染物質・化学薬品などの影響で、床材自体の変質・変退色や、施工後の反り・膨れ・剥がれ・目地隙などがおこる場合があります。維持管理には十分ご注意ください。
- タイルの剥がれ・反り・膨れ・割れなどが生じた場合、即座に補修してください。放置しておくことで全体に影響が及び、美観を損なうほか転倒事故の原因となります。
- ゴム製品に含まれる老化防止剤、家具の塗料や防腐剤・防虫剤・防蟻剤によって、床材が汚染され変退色する可能性があります。ご使用を避けるか、床に直接ふれないようにしてください。

タイヤ等のゴム製品が床材と接する際は
保護シート (アルミ製・ポリエステル製)
をご使用ください。



フロアタイル機能性マークの一覧

	表面クリア層の厚みを表しています。		バックカー層まで面取りすることで、くっきりとした目地が表現されよりタイルのサイズ感を感じられます。		タイル端部に、より深いラウンド形状を加工した、丸みを帯びた独特の目地表現です。		抗菌試験JIS Z 2801の結果に基づき、抗菌活性値2.0以上をクリアした商品です。
	タイル端部に面取り加工していないためフラットな目地の仕上がりになります。		タイルのカラーに近い色のバックカー層を使用することで、サイズ感とともに自然な目地色を表現することができます。		タイル端部に凹凸のある面取り加工を行い、風化した木材や石材の表情を再現します。		床材表面に加工している消臭剤が、ペット臭やトイレ臭、生ゴミ臭など気になるニオイの成分と化学吸着し、消臭性能が長持ちします。
	表面クリア層のみを面取り加工した、穏やかな目地表現になります。		タイル端部をラウンド状に加工することで、印刷面を端部まで生かしたリアルな目地の仕上がりになります。		JIS A 1454 耐汚染性試験にて試験片に有効塩素濃度6%次亜塩素酸ナトリウムを滴下し、24時間放置した結果、表面に変化が見られなかった商品です。		再生ビニル樹脂系材料の合計重量が、製品の総重量比で15%以上使用されたグリーン購入法適合商品です。

カーペットタイル取扱上のご注意

選択・施工上のご注意

- サンプル帳や現品見本、写真見本と商品の色が若干異なる場合がありますのでご了承ください。
- 柄物の商品を流し貼りにする場合、それぞれ柄の出方が異なりますので柄は合いません。
- ライン柄の商品を市松貼りにする場合、デザイン上、コーナーのつき合わせがずれて見えます。
- 防汚マークは商品の防汚性を示す目安です。用途に応じた防汚性カーペットタイルをお選びください。また美観維持のため、日常メンテナンスを心がけてください。
- 歩行マークは歩行頻度に対する耐久性の目安です。用途に応じたカーペットタイルをお選びください。
- 梱包ケースに記載されている品名・色番・ロット・数量をご確認の上、施工を開始してください。同一床面上は同ロットで仕上げてください。
- 施工後しばらくは色ムラに見えることがあります。これはパイルの倒れ具合によるものであり、徐々に解消されます。
- 下地は湿気の少ない平坦かつ堅牢なものとし、適切な施工環境を維持してください。施工環境が整わなかった場合、目地隙や突き上げ、膨れ、臭気などをまねく場合があります。
- コンクリート系の下地の場合、そこにアルカリ性の過剰な水分(水分率8%以上)があると、バックキンの塩ビ樹脂中に含まれる可塑剤が加水分解し、臭臭(アルコール系)が発生する場合があります。施工前に必ず水分率を確認し、水分率が高い場合は充分乾燥させてください。
- 各商品の指定接着剤をご使用ください。
- 目地にパイルを挟まないようにご注意ください。目地隙や段差の原因となります。
- 下地の汚れを完全に除去して施工してください。接着不良のおそれがあります。
- 市松貼り、流し貼りの選択は、各商品ごとの推奨施工方法をご参照ください。
- 推奨施工方法以外の貼り方で施工すると、目地の出方が不自然に目立つ場合があります。施工前に必ずご確認ください。
- ジョイント部にパイルの高低差が生じ、目地が目立つ場合や、施工後、柄の並びに違和感がある場合は、ほかの場所との入れ替えをお願いします。
- オゾンが発生させる空気清浄機が使用される場所や窒素酸化ガスの影響を受けやすい場所等ではパイルが変色する場合があります。
- 素材固有のニオイがあります。特に施工直後は換気を心掛けてください。
- カーペットタイルは繊維と塩ビの商品です。急激な温度変化は目地隙、突き上げの原因となりますので、室温になじませてから施工を開始し、施工中は急激な環境変化のないようにしてください。
- OAFロア上へ施工をされる場合、OAFフロアの形状や接地面積に留意して接着剤の塗布量を調整してください。
- 重量のあるキャスター椅子などによる局部荷重はカーペットタイルの伸びや剥がれの原因になります。
- リサイクルパウダー入りPVCバックキンの商品については、製法上裏面が部分的に白くみえたり、多少凹凸があったりしますが、品質に影響を及ぼすものではありません。

保管上のご注意

- カーペットタイルは梱包を解かずに、平坦な場所に、ずらさずに保管してください。積み過ぎや雨水などによる水濡れを避けてください。変形・変色・変質・汚染・パイルの損傷の原因となります。
- 開梱後の段積み保管はパイルつぶれの原因となり、色ムラに見えることがありますのでお避けください。

使用上のご注意

- カーペットタイルの剥がれ、反り、膨れなどが生じた場合は即座に補修してください。放置しておくとならぬ影響が及び、美観を損なうほか、つまづいて転ぶ可能性があります。
- カットパイルは、使用中にパイルの方向が部分的に異なり、雲状の色ムラのように見えることがあります。この現象はカットパイルの性質であり、品質の欠陥ではありません。
- ゴム製品や家具などの保護用ゴム材・塗料・防腐剤・殺虫剤などによって、カーペットタイルが汚染され変色をまねくおそれがあります。
- 家具の脚・ハイヒールなどの突起物、キャスター椅子による局部荷重は、へこみ跡やバックキンの損傷、カーペットタイルの剥がれ、パイルへたりの原因となります。
- 長時間直射日光が当たる場所では、パイルが変色する可能性があります。カーテン・ブラインドなどで日よけてください。

メンテナンスについて

- 汚れに応じて水または中性洗剤を薄めたもので洗い流し、よく乾かしてからもとの位置に戻してください。
- 塩素系の洗剤や化学薬品でパイルが変色するおそれがあります。
- ダストコントロールタイル(DT-1230、DT-1240)については、ダストポケット効果を維持するため、定期的に掃除機でメンテナンスを行なってください。
- 汚れがどうしても落ちない部分は新しいカーペットタイルと交換してください。
- メンテナンスの詳細については、P.545をご参照ください。

カーペットタイル機能性マークの一覧



「脱炭素社会」「循環型社会」「ロングライフ(長寿命化)」への貢献に向けて、リサイクル素材の使用有無や、染色工程の違いによって生じる環境負荷について検証し、自社基準にて5段階に評価しました。



消防法施行規則に基づく防火性試験に合格したカーペット等を示すマークです。



通行量が中程度の場所に適しています。応接間、ホテルの客室、レストランなどの業務用です。



2005年2月からカーペットタイルもグリーン購入法特定調達物品に指定されています。リサイクル材使用率25%以上(製品重量比)を使用した商品につけられます。



「脱炭素社会」への貢献に向けて、自社カーペットタイル基準品と比較して、CO₂排出量を削減する商品に表示しています。



パイルやラテックス等に帯電防止加工をした、又は繊維自体に制電性能を有した素材を使ったカーペットタイルです。



通行量の多い場所に適しています。学校、病院、商業施設、オフィスなどの業務用です。



エコリーフ環境ラベルは資源採取から製造、物流、使用、廃棄・リサイクルまでの、製品の全ライフサイクルにわたって、LCA(ライフサイクルアセスメント)による、定量的な環境情報を開示する環境ラベルです。



「明るく感じる空間」づくりをサポートする指標として、商品の反射率を表示しています。



ソイルガード(Soil Guard)は、撥水・撥油処理が施されていますので、汚れをうけつけにくくなっています。



JIS A 1454耐汚染性試験にて試験片に有効塩素濃度6%次亜塩素酸ナトリウムを滴下し、24時間放置した結果、表面に変化が見られなかった商品です。



グリーンラベルプラスは、米国のカーペット・ラグ協会「CRI」が定める室内空気環境基準に適合した商品につけられる認証マークです。



JIS A 1454 滑り性試験にて、乾燥状態・水+ダストのそれぞれの条件で優れた防汚性が確認された床材です。



ソイルハイド(Soil Hide)は、繊維の異形構造が、光を反射、吸収、透過させ、汚れが目立ちにくくなっています。



(公財)日本環境協会エコマーク事務局の審査に合格した商品に使用できるマークです。



「循環型社会」への貢献に向けて、再生材を使用した商品に表示しています。



カーペットタイルの耐久性について製品の素材・パイル目付・耐摩耗性のデータなどから総合的に判断しランク分けしています。

カーペット取扱上のご注意

選択・施工上のご注意

- カーペット・ラグ・フロテックスシートは屋内用です。屋外や半屋外では使用できません。
- カーペットの特性上、若干の寸法誤差が生じる場合があります。
- 歩行マークは歩行頻度に対する耐久性の目安です。用途に応じたカーペットをお選びください。特にピンヒールシューズはカーペットに大きな負荷をあたえますので、商品の選択には十分ご注意ください。
- 防ダニ、抗菌等の表示は加工処理の有無を示しています。カーペット、その他内装材だけでお部屋を完全に防ダニ、抗菌にすることはできません。お掃除や換気等、日常のメンテナンスに配慮してください。また、人体に影響の少ない薬剤を使用していますが、乳幼児が誤って口に含むことのないようご注意ください。
- 防ダニ、抗菌、抗アレルギー、抗ウイルス、消臭等の試験数値は測定値であり保証値ではありません。
- サンプル帳の見本と製品の色、また写真と実際の商品では色や質感が異なる場合がありますが、ご了承ください。実物サンプル等でお確かめください。

- 濃い色のカーペットはチリやホコリが目立ちますのでご注意ください。
- 下地から絶えず湿気の上昇がある場所では使用を避けてください。施工後に臭気が発生するおそれがあります。
- 梱包紙に記載されている品名・品番・ロット・数量をご確認いただき、サンプル帳の見本と照合の上で施工を開始してください。同一床面上は同ロットで仕上げてください(生産巾が異なる商品をジョイントすると色違いになります)。サンライム®II、サンオスカー®、サンスコッチ、サントバースIII、サンインディゴ等の後染め商品をジョイントする際は色違いを防ぐために、ロールの端部分と中間部分はつながないでください。
- 天然素材であるウールは、紫外線や酸素に触れることで開封後すぐに若干の色変化を起こす「さらし現象」と呼ばれる特性があります。これは品質上の欠陥ではありません。ジョイントする場合は、同一床面上は同日中に仕上げ、数日にわたる場合はジョイント部分に覆いかけ等の対策を行ってください。

- フェルトグリップ工法の場合はピン先をつぶしてください。けがの原因となります。
- 延伸工具で四方均等にテンションをかけて施工してください。延伸が不十分だと施工後にたわみが発生する可能性があります。
- ジョイントの場合は、パイル抜け防止のため、必ず接着剤で目止めを行ってください。
- ロールカーペットは商品の性質上、自重による圧痕(プレッシャーマーク)がつく場合があります。
- ボーイング現象について**
パイルは巾方向に若干の蛇行が見られます。製造中の中央部と端部への張力のかけ具合の差によって生じるもので、製法上の特性としてご理解ください。
- 遊び毛について**
パイル組成表示が「ウール・モダクリル・ポリエステル」の商品は紡績糸(短繊維を絡め攪り合わせた糸)を使用しており、その特性上、しばらくの間遊び毛が出ます。また、紡績糸使用のカーペットの日常メンテナンスは、掃除機の回転ブラシは使用せず、吸引を主体に行ってください。遊び毛の出にくいカーペットを望まれる場合はナイロンやポリプロピレン等フィラメント糸を素材としたものやループパイルのカーペットをお選びください。
- くも現象について**
カットパイルは使用中にパイルの方向が部分的に異なり、雲状のムラのように見えることがあります。「くも現象」やシェーディング(日陰・明暗)と呼ばれるものであり、パイルが長く、濃い色合いのカーペットに起こりやすい現象です。これはカットパイルの性質であり、商品の欠陥ではありません。特にウールに代表される天然素材パイル商品はご注意ください。















住宅用カーペットタイル 選択・施工上のご注意

- 住宅用カーペットタイルは屋内用です。屋外や半屋外では使用できません。
- 住宅用途以外では使用しないでください。歩行量の多いところで使用すると、商品の品質に問題が生じるおそれがあります。
- 防汚マークは製品の防汚性を示す目安です。美観保持には日常のお手入れを心がけてください。
- 消臭加工は二オキシを軽減する加工であり、効果には個人差があります。
- 防ダニ、抗菌等の表示は加工処理の有無を示しています。カーペット、その他内装材だけでお部屋を完全に防ダニ、抗菌にすることはできません。お掃除や換気等、日常のメンテナンスに配慮してください。また、人体に影響の少ない薬剤を使用していますが、乳幼児が誤って口に含むことのないようご注意ください。
- サンプル帳の見本と製品の色、また写真と実際の商品では色や質感が異なる場合がありますが、ご了承ください。実物サンプル等でお確かめください。
- 濃い色のカーペットはチリやホコリが目立ちますのでご注意ください。
- 梱包ケースに記載されている品名・品番・ロット・数量をご確認いただき、サンプル帳の見本と照合の上で施工を開始してください。同一床面上は同ロットで仕上げてください。
- コンクリート系の下地では使用しないでください。
- 目地にパイルを挟まないようご注意ください。目地隙や段差の原因となります。
- 下地の汚れを完全に除去して施工してください。接着不良のおそれがあります。
- 貼り方は、商品ごとの推奨施工をご参照ください。
- 推奨施工以外で施工すると、目地の出方が不自然に目立つ場合があります。施工前に必ずご確認ください。
- 下地は湿気のない平坦かつ堅牢なものとし、適切な施工環境を維持してください。施工環境が整わなかった場合、目地隙や突き上げ、膨れ、臭気、はがれ等を招く場合があります。

保管上のご注意




- 運搬途中で折らないでください。折りジワが残ったり、施工後の「伸び」の原因となったりする可能性があります。
- 雨水等による水濡れを避けてください。変形、変質、変色、汚染、たわみやパイルの損傷等の原因となります。
- カーペット・ラグは梱包を解かずに、平坦な場所に寝かせて保管し、上にもものを積載しないでください。
- 住宅用カーペットタイルは、梱包を解かずに、平坦な場所にずらさずに保管してください。また、積み過ぎはパイルの損傷等の原因となります。

カーペット機能性マークの一覧

	消防法施行規則に基づく防火性試験に合格したカーペット等を示すマークです。		JIS A 1454 滑り性試験にて、乾燥状態・水+ダストのそれぞれの条件で優れた滑り性が確認された床材です。
	パイルやラテックス等に帯電防止加工をしたカーペット、又は繊維自体に制電性を有した素材を使ったカーペットです。		厚みを持つ発泡構造により、転倒時の衝撃を緩和し安全性を高めています。JIS A 6519 に準拠した床の硬さ試験でも直貼りの他の床材と比較して衝撃吸収性が優れています。
	パイル糸を糸洗いにすることにより、より鮮やかで深みのある色彩が得られます。また防汚効果も高まります。		安全性・持続性に優れた防ダニ加工を基布に施したカーペットです。
	プリティッシュウールマーク 英国羊毛を50%以上使用し、英国羊毛公社(BWMB)の品質基準に合格したカーペットです。		床暖房のフローリングの上にも置敷き可能な商品です。
	ソイルガード(Soil Guard)は、撥水・撥油処理がしてありますので、汚れをうけつけないでいられます。		ペット臭など気になるニオイの消臭効果がある商品です。
	ソイルハイド(Soil Hide)は、繊維の異形断面構造が、光を反射、吸収、透過させ、汚れが目立ちにくくなっています。		光触媒チタンパタイトによるダニの糞や死骸、花粉などのアレル物質除去効果がある商品です。
	抗菌試験 JIS Z 2801 結果に基づき抗菌活性値2.0以上をクリアした商品です。基布に抗菌加工を施しています。		光触媒チタンパタイトによる抗ウイルス効果がある商品です。

カーペットの耐久性について(歩行マーク)

製品の素材・パイルの目付・耐摩耗性のデータなどから総合的に判断し、重歩行・中歩行・軽歩行の3段階にランク分けしています。(自社基準)

	通行量の少ない場所に適しています。居間、寝室、子ども部屋などの一般家庭用です。		通行量が中程度の場所に適しています。応接間、ホテルの客室・レストランなどに適しています。		通行量の多い場所に適しています。学校、病院、銀行、オフィスなどの業務用です。
---	---	---	--	---	--

使用上のご注意

- ラグは置敷きですので、ラグ自体が滑り転倒する場合があります。
- 木床等滑りやすい床面に置敷きする場合は、すべり止めシート(別売)、すべり止めテープ(別売)等をご利用ください。(住宅用カーペットタイルを除く)
- ラグの下部分とラグを敷いていない部分の色差が生じる可能性がありますので、同じ場所で使用する場合は、定期的にラグの位置を替えたり、下地となる床面を拭いたりしてください。
- 下地の床面をワックス掛けした後は、完全に乾燥させてから敷いてください。
- 住宅用カーペットタイルを、ワックスが塗布されている下地で使用する際は、はがした時に商品および見切り材の吸着材が床面に残る場合があります。残った場合は濡れた布等で拭き取ってください。(ワックスによっては取れにくい場合もあります)
- ロボット掃除機を使用する場合は、ラグ、掃除機が破損するおそれがあります。掃除機メーカーの取扱説明書に従って使用してください。
- 市販の消毒液・除菌剤を使用の際は、風合いを損ねる場合があります。消毒液・除菌剤メーカーの取扱説明書に従って使用してください。
- 床暖房を使用する際、温められることにより、素材特有のニオイが生じる場合があります。ニオイが気になる方は使用を避けてください。
- 床暖房・ホットカーペット等の上で使用すると、床暖房・ホットカーペット等の昇温に時間を要します。
- 床暖房・ホットカーペット等の使用に際しては床暖房・ホットカーペットメーカーの取扱説明書に従ってください。
- カーペットのたわみ、めくれ、ジョイントのほつれ等が生じた場合は、即座に補修してください。放置しておくことで全体に影響がおよび、美観を損なうほか、転倒事故を招く可能性があります。特に階段でのたわみ等は、つまずきによる転倒事故に繋がりがやすく注意が必要です。
- 住宅用カーペットタイルのはがれ、反り、膨れ等が生じた場合は、即座に補修してください。放置しておくことで全体に影響がおよび、美観を損なうほか、つまずきによる転倒事故を招く可能性があります。
- パイルがほつれた場合、ほつれの伝線を防ぐために必ずハサミでカットしてください。
- 直射日光の当たる場所では、パイルが変色する可能性があります。必ずカーペット、ブラインド等で日よけをしてください。
- タフテッドカーペットに使用している合成ゴム(ラテックス)やジュート(麻)はニオイを発生させることがあります。数日間十分な換気を行うことで解消されます。
- パイル素材には固有のニオイがあります。特に新しく施工した際はニオイが発生しやすいので換気を心がけてください。
- オゾンが発生させる空気清浄機が使用される場所や窒素酸化物ガスの影響を受けやすい場所等ではパイルが変色する場合があります。
- 巻き癖が残っている場合がありますが、時間の経過とともに解消します。
- 結露水はパイルを変色させたり、カビを発生させたりする原因となります。こまめに換気する等、結露を防ぐ工夫をしてください。
- 天然素材であるウールは、素材の性質上、色落ちする場合がありますのでご注意ください。
- ゴム製品や家具等の保護用ゴム材、塗料、防霉剤、防虫剤等によって、商品が汚染されて変色を招くおそれがあります。
- 家具の脚やハイヒール等の突起物による局部荷重はへこみやフェルト部分の損傷の原因となります。

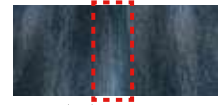
メンテナンスについて

- カーペット・ラグは洗濯できません。クリーニング(水洗い、ドライクリーニング)によって、パイルの風合いや色相の変化、裏貼り材の剥がれ、寸法の変化を起こす場合があります。
- 住宅用カーペットタイルは、汚れに応じて水または中性洗剤を薄めたもので洗い流し、よく乾かしてからもとの位置に戻してください。汚れがどうしても落ちない部分は新しいタイルと交換してください。
- 定期的に掃除機をかけてください。一部商品は特性上遊び毛が発生しやすいため、掃除機の回転ブラシは使用せず、吸引を主体に行ってください。
- 汚れに応じて水または中性洗剤を薄めたものでたくように拭き取ってください。洗剤を使用した場合は、たく絞ったタオルで水拭きしてください。
- 塩素系の洗剤や化学薬品を使用すると、パイルが変色するおそれがあります。
- 汚れが付着したらできるだけ早く除去してください。時間が経過するほど、除去しにくくなります。
- 濡れたまま放置すると変形、変質、変色、カビの発生、裏材の剥離が生じる場合があります。

サンインディゴ 施工上のご注意

■商品の特徴

商品の染色リビートはタテ360cmヨコ180cmとなります。ランダムな柄表現にするため特殊な染色方法を用いており、ジョイント施工の際、柄が正確に合いません。グラデーション部分が色ムラに見える場合がありますが、デザイン上の特性としてお含みおきください。



グラデーション部分

■施工上のご注意

①ジョイントの際は、ロール巾端部同士でのジョイントを行ってください。ロール巾端部以外でのジョイントはラインが見えることがあります。



ロール巾端部同士をジョイントした場合

②ロール巾同士のジョイントは避け、ジョイント前に必ずライン確認を行ってください。ジョイントラインが目立つ際には両端部を1列ずつカットすることで緩和されます。



ロール巾同士をジョイントした場合



ハイループ同士をジョイントした場合

③胴継ぎジョイントはタテの染色リビート360cmの位置で行っていただくことで、ジョイントラインが緩和されます。



タテリビートを合わせてジョイントした場合 ※柄が正確には合いません。



リビートを合わせずジョイントした場合

ベンリダイン取扱上のご注意

選択上のご注意

- 各種内装材に適した接着剤を、現場環境(気温、湿度、下地種類、下地状態)や使用目的に応じて選択してください。
- 接着剤の選定にあたってはP.497～498「床用接着剤と床材の組合せ」とP.521～522下地の確認STEP1吸水性と下地の種類・STEP2下地の乾燥状態の判断方法、弊社各種見本帳に記載している推奨接着剤をご参照ください。

運搬ならびに保管上のご注意

- 重量物なので、取扱いは十分ご注意ください。容器に漏れないことを確かめ、落下や乱暴な取り扱いを避けてください。また、荷崩れの防止を確実に行ってください。
- 輸送に関しては、消防法・船舶安全法などの法規に従った運送方法で行ってください。
- 凍結・直射日光を避け、容器を密閉し、5～35℃の室内で保管してください。一度開封した後に保管する場合は、密閉して保存し、早めにご使用ください。
- 幼児・児童の手の届かないところに保管してください。

使用上のご注意

- ご使用前に必ず商品容器・梱包に記載している使用上の注意事項をご確認ください。
- 用途以外には使用しないでください。
- 必要に応じて適切な保護手袋・保護衣・保護眼鏡・保護面を着用してください。
- 取扱後はよく手を洗ってください。
- 使用中に気分が悪くなった場合は使用を中止し、空気の良い場所で安静にしてください。
- 蒸気を多量に吸引したり、誤って飲み込んだ場合は、速やかに医師の診断を受けてください。
- 皮膚に付着した際は多量の水と石鹸で洗い、かゆみや炎症が残った場合は医師の診断を受けてください。
- 目に入った場合、速やかに流水で15分以上洗ってから医師の診断を受けてください。またコンタクトレンズ着用の場合は、外して洗ってから医師の診断を受けてください。
- 作業衣についた場合、汚染された衣類は脱ぎ、再使用する場合はその前に洗濯をしてください。
- 液がこぼれた場合、乾いた砂やウエスなどで拭き取り回収してください。
- 開封した接着剤は速やかに使い切ってください。
- 残った接着剤・容器は、許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処分を委託してください。

施工上のご注意

- 各接着剤指定の工具を使用してください。
- 下地の不陸・段差は必ず補修してください。接着剤での不陸調整は行わないでください。
- 床材によっては接着しにくいものもありますので、試験した上でご使用ください。
- 上澄み液が分離している場合は、よく攪拌してください。
- 所定の塗布量で、均一になるように塗布してください。
- オープンタイム・貼り付け可能時間は接着剤の種類・施工環境(温度・湿度など)によって変わります。一般的に高温時・湿度が低い時・風通しのよい場合・吸水性のよい下地の場合はオープンタイム・貼り付け可能時間は短くなります。特に冬場の低温時にはオープンタイム・貼り付け可能時間は極端に長くなり、接着不具合にもつながります。このような際は、ジェットヒーターなどで現場温度を確保する対策が必要です。
- 床材貼り付け後は十分に圧着してください。圧着不足は、膨れ・反り・突き上げ・はがれなどの原因となります。
- 施工後は接着剤が十分硬化するまでは通行を制限し、直射日光や冷暖房などによる急激な温度変化や、重量物や椅子のキャスターなどの車輪によるごきは避けてください。
- 接着剤が完全に硬化するまでは、表面洗浄・ワックス塗布など水の使用を避けてください。

ゴム系ラテックス形・アクリル樹脂系エマルジョン形接着剤について

- 耐湿型の接着剤ではありません。水分率の高い下地や常に水を使用するような場所には使用できません。
- 低温時(10℃以下)では硬化が遅れ、完全硬化までには6～7日要しますのでご注意ください。
- 他に付着した場合は、きれいな水で直ちに拭き取ってください。

溶剤形接着剤について

- 溶剤形接着剤は、労働安全衛生法・消防法によって取扱い方法・保管方法に制限があります。各種法令をご確認ください。
- 火気のあるところでは使用しないでください。
- 有機溶剤作業責任者立会いの下で使用してください。
- 室内の換気をよくし、換気心に掛けてください。
- 有機溶剤を多量に吸引すると、人体に影響を及ぼす場合があります。
- 下地に塗布した接着剤を容器に戻さないでください。
- 他に付着した場合はペイントうすめ液などで直ちに拭き取ってください。
- 溶剤の揮発ガスなどにより床材に膨れが生じる可能性があります。適切な塗布量・適切なオープンタイムで施工し、貼り付け後はローラーなどで十分に圧着してガス抜きを行ってください。